令和４年度～令和６年度

地域農業振興計画

“販売品販売高　目指せ!! 300 億円”

ど真ん中に“食と農”、
次代につなぐ地域づくり

ふくしま未来農業協同組合

Ｊ　Ａ　綱　領

－わたしたち JA のめざすもの－

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野にたって環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織として社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

1.地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。

1.環境・文化・福祉への貢献を通じて､安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。

1.ＪＡへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。

1.自主・自立と民主的運営の基本に立ち、ＪＡを健全に経営し信頼を高めよう。

1.協同の理念を学び、実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

経営理念

未来への 心をつなぐ パートナー

“農をはぐくみ 地域をつなぐ”

私たちは「農業王国ふくしま」の新たな創造に挑戦します。
くらしの豊かさと安心を追求し、笑顔あふれる地域を未来へつなぎます。
私たちは、みなさま一人ひとりの心をつなぐパートナーの役割を、
誠実・確実に果たしてまいります。

一.ふるさと福島を愛し、豊かな自然、水、光を未来へつなぎます。

主たる項目 15 関連項目 6 7 12 13 14

一.創造と挑戦により、多様な農業・文化を次代につなぎます。

主たる項目 9 関連項目 1 2

一.豊かなくらしを創るため、協同活動の和をつなぎます。

主たる項目 16 関連項目 3 10 11

一.地域の笑顔をいつまでも、人と人、心をつなぎます。

主たる項目 17 関連項目 4 5 8

●ごあいさつ　地域農業振興計画の策定にあたって

代表理事組合長
数又　清市

地域の未来につながる「もうかる農業」の実現のため3か年計画（2022~2024年度）では、「ど真ん中に“食と農”、次代につなぐ地域づくり」をスローガンに掲げ、それぞれの地域の特性を生かし、安全・安心な農畜産物の生産と美味しさを醸し出すために美しい自然を守り育み、10年後のめざす姿を実現するために、地域農業振興計画を策定いたしました。

農業をめぐる情勢は、基幹的農業従事者の高齢化により担い手の確保が困難となり、農業の持続可能性が懸念されております。特に、離農による農地面積の減少並びに有害鳥獣被害が増大し営農継続に深刻な影響を与えております。このような環境変化に対応するため、常勤役員による認定農業者の方々への継続的巡回を通して頂いた意見要望を聞き取り具体化に向けて検討実践してまいりました。さらに関係12市町村長との意見交換会を踏まえ、共通の課題として施策への折込みなどを要請いたしてまいりました。その中では、コロナ禍を踏まえての農畜産物トップセールスの継続展開やニーズに即応した多様な販売方式、農業振興戦略の検討構築、鳥獣被害対策、産地の持続的維持発展に不可欠な労働力確保対策等多くの課題問題が提起されたところであります。

以上の内容を踏まえ本計画では、地域農業振興の方向性（ビジョン）をお示しすることで目指す姿を掲げ、農業者の所得増大・農業生産の拡大等の実現を、最重点事項として年次別に実践内容を計画いたしております。

第一に、「地域農業振興戦略」については、農業者の所得増大に向けた営農類型を展開するために、農業振興支援事業を活用しながら1営農センター1億円販売高アップにつながる基幹品目を再構築し、農産物の高付加価値化による有利販売並びに作業性向上に向け農業共同施設導入などの取り組みを強化致します。また、新たな販売体制の構築（多チャネル化）や輸出等販路拡大による販売単価アップにむけて、営農経済データを有効に活用しながら、JAの総合事業の強みを活かした担い手渉外・営農指導員巡回体制を強化実践してまいります。

第二に、「持続可能な農業の実現」については、地域農業の多様な担い手づくりとして、新規就農者の確保と支援体制づくりの強化に向け、担い手育成のための「JAふくしま未来式“のれん分け方式”」をスタートさせます。最長2年間、契約農家で受入れ、独立後も土地の提供や相談員を派遣するなど土地も人脈もない新規就農者に寄り添った体制構築に全力で取り組んでまいります。併せて政府が打ち出す「みどりの食料システム戦略」については、30年後の農業のめざす姿として、国際的な基準による有機農業の取り組み面積を拡大し､化学肥料の使用量を低減･低リスク農薬への転換を進めてまいります。

第三に、「農業経営支援の強化」については、今後さらなる自然災害に備えるため、また様々なリスクから農業経営を守るため、農業保険（収入保険・果樹共済・園芸施設共済）等の加入促進に取り組みを進め、農業経営の安定化を支援してまいります。また、昨年春先の凍霜害による被害は県内の役8割が当JA管内であり甚大な被害となりました。さらには、米の価格は新型コロナウイルスの影響により外食産業、個人消費が落込み、大きく下落いたしました。このようななか営農継続と次期作支援に向け緊急助成支援を行ってまいりました。今後につきましても生産者の目線に立ち最も重要な事を見極めて支援することが必要であると考えております。

第四に、GAP認証ブランド化の取り組みについては、加入者への対応と新規取り組み者への積極的な推進と販路拡大について、直売所販売強化・情報発信強化として動画制作による配信・ライブカメラ活用等により安全性をPRすることで風評対策と復興に繋げて行きたいと考えております。

以上のような取り組みを通じて、JAは「地域になくてはならない存在」として、様々な事業を展開し販売品販売高300億円を目指してまいりますので、組合員皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。

目　次

◆管内農業の実態
- JA販売高の推移、総農家の現状 …… 1
- 年齢別農家割合推移・予測 …… 2
- 経営耕地面積の推移 …… 2

◆地域農業振興戦略　3つの柱 …… 3

◉柱1
- 農業者の所得増大・農業生産の拡大、みらいろテン!の継続強化 …… 3
- もうかる農業の確立に向けた中核的担い手の育成と新規就農者対策 …… 4
- JAふくしま未来版のれん分け方式の取り組み …… 5
- JA販売高1,000万円経営体拡大に向けた取り組み …… 8
- 輸出の取り組み …… 8
- GI制度の取り組み …… 8
- 1営農センター1億円販売高アップの取り組み …… 9
- 営農販売支援の取り組み …… 9
- 機械共選機 …… 9
- 食の安全・安心の取り組み …… 10
- 農の達人 …… 10
- 管内マップ ふくしま未来全域 …… 11
- 収穫カレンダー …… 12
- 販売事業方針　令和4年度～令和6年度 …… 15
- 地区本部別重点取り組み事項(園芸戦略・品目別販売方針(数値計画)・経営モデル)
- 福島地区 …… 16
- 伊達地区 …… 22
- 安達地区 …… 32
- そうま地区 …… 36
- 花卉(小菊)《重点事項・取り組み》 …… 40
- 農産物直売所・直販《重点事項・取り組み》 …… 41
- 米穀類《重点事項・取り組み》 …… 42
- 畜産《重点事項・取り組み》 …… 44
- みどりの食料システム戦略について …… 46
- 有害鳥獣対策について …… 46
- 農業労働力確保に向けた取り組みについて …… 46
- 農地保全管理について …… 47
- JA管内の優良事例 …… 47

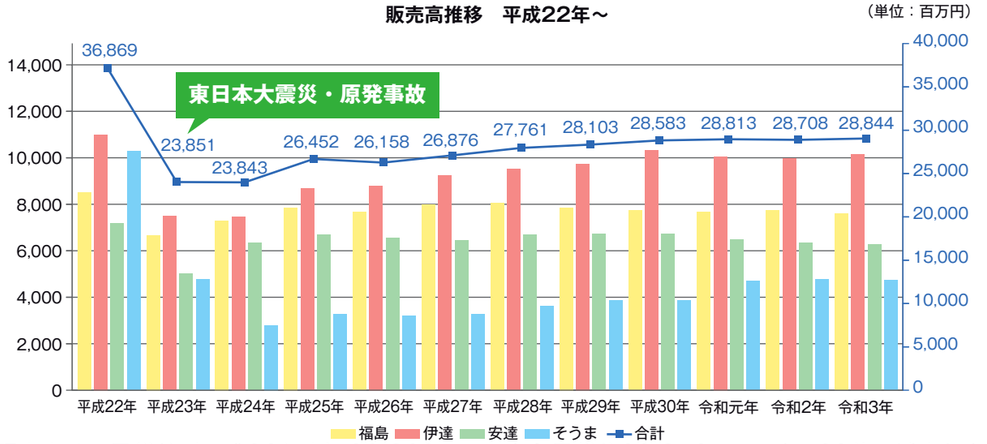
◉柱2
- 異常気象・自然災害に対する対策・支援 …… 49
- 異常気象・自然災害に対する主な営農指導 …… 49
- 異常気象・自然災害に対する肥料等購入費の助成支援 …… 52
- 異常気象や自然災害に対する農業資金の取り組み …… 53

◉柱3
- 震災からの完全復興に向けた産地づくり …… 54

◆地域農業振興のための購買事業の取り組み …… 56
◆販売品販売高計画 令和4・5・6年度JA販売品販売高計画 …… 57
◆販売品販売高計画 令和4年度地区本部別販売品販売高計画 …… 58
◆農業所得アップ・販売額アップ事例!(JA広報誌「みらいろ」掲載より) …… 59
◆JAグループ福島の取り組み
第41回JA福島大会議案(地域農業振興戦略抜粋版) …… 60

◆管内農業の実態

JA販売高の推移

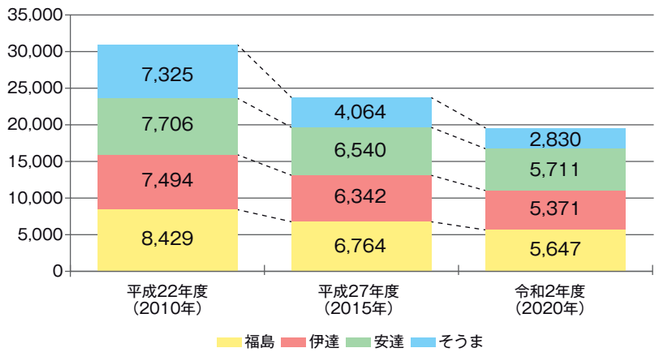


販売高は、震災前（平成22年度）36,869百万円から震災後23,843百万円と130億円減少した（64.7%）。令和3年度280億円、76.1%まで回復したが、そうま地区については、水田作付面積は約**67%**、販売高は未だ37.5%しか回復していない。**飼料米を概算金換算すると26億円（うちそうま20億円:換算復興率57.5%）。飼料米換算JA販売高310億円**

総農家の現状

（単位：人,%）

項　目	平成22年度（2010年）	平成27年度（2015年）	令和2年度（2020年）	増減（2020-2010）	対比（2020-2010）
福島地区	8,429	6,764	5,647	△2,782	67.0%
伊達地区	7,494	6,342	5,371	△2,123	71.7%
安達地区	7,706	6,540	5,711	△1,995	74.1%
そうま地区	7,325	4,064	2,830	△4,495	38.6%
合　計	30,954	23,710	19,559	△11,395	63.2%
県　計	96,598	75,338	62,584	△34,014	64.8%

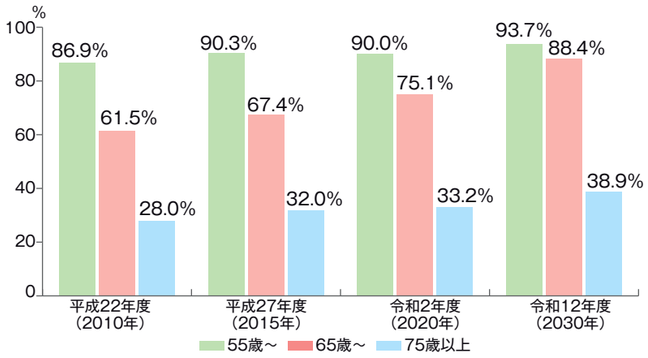


総農家数は、２０２０年19,559人、2010年対比で11,395人（36.8%）減少している。東日本大震災・原発事故により、そうま地区で▲61.4%と大きく減少している。

年齢別農家割合推移・予測

（単位：%）

項　目		平成22年度（2010年）	平成27年度（2015年）	令和2年度（2020年）	令和12年度（2030年）	増減（2020-2010）	対比（2020-2010）
55歳～	福島地区	85.3%	88.4%	87.6%	90.4%	2.2%	5.1%
	伊達地区	86.7%	89.8%	90.3%	94.3%	3.6%	7.6%
	安達地区	88.7%	92.9%	92.7%	97.5%	4.1%	8.8%
	そうま地区	87.0%	91.0%	89.6%	93.0%	2.6%	6.0%
	合計	86.9%	90.3%	90.0%	93.7%	3.1%	6.9%
	県計	87.7%	90.7%	90.6%	94.1%	3.0%	6.4%
65歳～	福島地区	61.8%	66.1%	72.1%	82.2%	10.3%	20.4%
	伊達地区	61.9%	66.1%	75.7%	88.6%	13.8%	26.7%
	安達地区	62.3%	68.9%	78.2%	93.7%	15.9%	31.4%
	そうま地区	59.7%	70.2%	74.7%	90.6%	15.0%	31.0%
	合計	61.5%	67.4%	75.1%	88.4%	13.6%	26.9%
	県計	62.7%	67.8%	74.8%	86.6%	12.1%	23.9%
75歳以上	福島地区	30.0%	33.2%	33.3%	37.0%	3.3%	7.0%
	伊達地区	29.0%	31.1%	34.5%	39.8%	5.5%	10.8%
	安達地区	27.6%	31.9%	32.8%	38.5%	5.2%	10.9%
	そうま地区	24.3%	31.2%	30.9%	38.7%	6.6%	14.4%
	合計	28.0%	32.0%	33.2%	38.9%	5.2%	10.9%
	県計	27.6%	32.4%	32.4%	37.9%	4.8%	10.3%



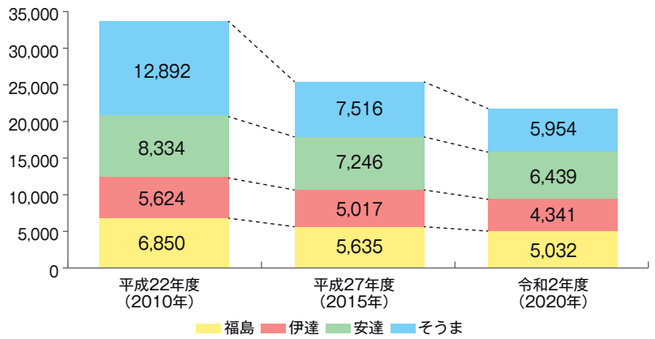
基幹的農業従事者を年齢別でみると、55歳以上2020年で9割を超えている。また65歳以上の老年年齢従事者は7.5割を超えている。

このままのトレンドで単純分析すると、2030年には、55歳以上の従事者が9.4割となり、75歳以上は約4割の高齢な従事者構造となってしまう。

経営耕地面積の推移

（単位：ha,%）

項目	平成22年度（2010年）	平成27年度（2015年）	令和2年度（2020年）	増減（2020-2010）	対比（2020-2010）
福　島　地　区	6,850	5,635	5,032	△ 1,818	73.5%
伊　達　地　区	5,624	5,017	4,341	△ 1,283	77.2%
安　達　地　区	8,334	7,246	6,439	△ 1,895	77.3%
そ　う　ま　地　区	12,892	7,516	5,954	△ 6,938	46.2%
合　　計	33,700	25,414	21,766	△ 11,934	64.6%
県　　計	120,487	98,420	87,455	△ 33,032	72.6%



経営耕地面積は、2020年管内合計で35.41%減少と県内平均27.42%を大きく上回り11,934ha経営耕地面積が減少した。これは、東日本大震災・原発事故による影響でそうま地区で▲53.8%、福島地区で▲26.5%と大きく減少している。

◆地域農業振興戦略 3つの柱 ~Agricultual Promotion Strategy Plan Three Pillars~

これまで取り組んでまいりました「農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化」の継続およびさらなる発展を目指し、今後の長期的ビジョンを見据えた3つの柱を設定し農業振興のため、第3期地域農業振興計画を策定し取り組んでまいります。

- 柱1 Plan 1　農業者の所得増大･農業生産の拡大、「みらいろテン!」の継続強化
- 柱2 Plan 2　異常気象・自然災害に対する対策・支援
- 柱3 Plan 3　震災からの完全復興に向けた産地づくり

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

農業者の所得増大・農業生産の拡大、みらいろテン!の継続強化

全体方針

中通りから浜通りまでの環境を活かし、地域性を重視した安全・安心な農畜産物の生産、米穀・果実・野菜・花卉・畜産の生産維持・拡大に努め、「魅力増す農業」の実現を図ります。

そのため、多様な担い手の育成・確保、農地集積による農地の有効活用及び農業振興支援事業により力強い農業構造の実現、将来を見据えた産地形成を図り、1営農センター1億円販売高アップに取り組みます。

また、市町村の「人・農地プラン」と連携した「地域農業振興計画」を策定・実践し、農業者所得の増大・生産拡大・新規就農拡大を目指します。

さらに、各地区営農センターを拠点とした出向く営農指導体制を構築し、営農指導員の資質向上・営農巡回と担い手渉外（TAC）の訪問活動により、組合員の営農技術向上・農業経営発展及び所得アップ・気候変動対応等に寄与してまいります。

みらいろテン!継続強化

スローガン　農業者所得10%UPへの挑戦

「収量アップ」「品質アップ」「コスト削減」

販売価格 UP	×	農業生産の 拡大	−	生産トータルコスト DOWN	＋	農業振興 支援事業
●販売戦略強化 直販、買取、複数年等 ●地産地消充実 ●6次化商品開発 ●イベント・PR等 ●トップセールス・産地情報発信等による風評払拭		●集落営農・法人設立支援・連携 ●JA販売高1,000万円農家育成 ●新規就農支援 ●JGAP取得・拡大 ●労働力調整 ●共選施設利用による栽培面積拡大		●各種生産コスト削減 ●オリジナル肥料推進 ●肥料農薬地域最安値挑戦 ●出荷資材統一 ●入札制度 ●密植苗でのコスト削減 ●予約購買、現地直送等の安価供給の提案		●農業振興支援事業（助成） ●担い手育成支援事業（助成） ●異常気象・自然災害対策・支援

●担い手渉外（TAC）・営農指導員巡回　●「農の達人（作物営農技術員）」委嘱（農の達人拡充）　●1営農センター販売高1億円アップの取り組み

3年後の目標　販売品販売高　めざせ!300億円

もうかる農業の確立に向けた中核的担い手の育成と新規就農者対策

▶営農指導体制強化

Ⅰ.営農指導員体制 （ 訪問活動の強化及び生産量拡大）

1.取り組み方針

営農指導巡回制度は「出向く体制」営農指導体制として実施してきましたが、農家の評価としては決して高いものとは思われていない現状がございます。

今後も営農指導体制を本来の「出向く体制」として継続の取り組みとして実施していくことが必要であり引き続き、体制強化に取り組んでまいります。

2.営農指導巡回強化制度の仕組みと運営

JAふくしま未来の農業振興、活性化には、地域の主業農家を中心とした農家組合員の所得向上と、経営基盤の確立が農業振興には重要な役割りを担っており、営農指導巡回強化に取り組んでまいります。

3.営農指導員トレーナー専任配置による営農指導員の育成

最新の営農技術や資材、農業等の情報を提供するために、営農指導員トレーナーを各地区に配置し、営農指導員のスキルアップ向上と経済事業に関するマネジメント業務の強化を目指し取り組んでまいります。

- ●巡回農家：認定農業者、担い手農家、農業法人、部会役員、新規就農者　等
- ●訪問目標件数(営農指導員一人あたり)：75戸（重点指導農家25戸、通常巡回農家50戸）
  ※重点指導25戸のなかから農家5戸を選定して、所得アッププランを作成し農業技術の向上と所得アップの検証に取り組んでまいります。

Ⅱ.担い手渉外体制 （ 訪問活動の強化及び系統出荷率向上 ）

1.取り組み方針

管内の農業生産力は高齢化により担い手の減少、地域農業の担い手等の経営基盤の低下により生産力の低下が続いており、JA組織として、「農業者の所得向上」と先進的戸別経営体の農家（認定農業者等）や中核的担い手農家とのつながりを太くすることが、JAの事業面においても重要だと考えております。

また、生産現場の状況を踏まえた、的確かつ迅速な営農活動の対応と実践が急務となっており、販売・購買事業と農業融資・農業関連共済の成果につながる取り組みを強化することを目的に、担い手渉外担当者を設定し、系統利用の向上を図ることを明確な目的に据え、経済団体として本質的な巡回訪問の取り組みと合わせて、近年多く見られる農作業での事故に対処すべく労災保険の加入誘導についても取り組んでまいります。

- ●対象農家：農業法人、集落営農組織、受託組織、指導農業士、青年農業士、JA利用率の低い担い手農家 等
- ●訪問目標件数(担い手渉外担当者1人あたり)：重点先50戸

▶JAふくしま未来版のれん分け方式の取り組み

「就農しやすいJAふくしま未来管内」の実現に向けて、地域における新規就農者の確保と育成目標を明確にし、JA管内の就農情報の「一元的な収集・発信」に意欲的に取り組みます。また、県北農林事務所・相双農林事務所・12市町村・JAふくしま未来の重点的な支援などにより、新規就農者の確保を推進します。

地域段階の研修体制や支援体制の充実を図り、のれん分け方式による農業後継者の技術習得・経営継承や新規参入者の就農後の速やかな技術力・経営力の向上を支援します。

■令和4年度の取り組み

1 地域農業振興計画を踏まえた方針の策定
- ●新規就農者の経営開始から定着さらには、将来に繋がる支援

2 就農希望者へのアプローチ（就農相談会の実施・参加）

3 農業研修体験（現地見学）/インターンシップの機会を提供

4 長期農業研修
- ●研修受入先の栽培内容に合わせて農業研修を行う

5 就農準備支援
- ●営農計画の策定支援・農業次世代人材投資事業等関係機関とサポート

6 農地確保に向けた耕作放棄地の再生利用

■令和5年度の取り組み

1 のれん分け方式による農業技術継承及び栽培経営への取り組み（チャレンジ）
- ●研修先は、実際の栽培樹園地を設けて栽培に取り組む

2 新規就農サポート体制の確立・支援
- ●新規就農サポート体制を図るためJA担い手渉外担当者及び専任担当者の定期的巡回・関係機関との連携体制を図り対応する

■令和6年度の取り組み

3年目からの早期自立支援

1 就農直後
- ●就農後の継続的な支援

2 経営発展期
- ●経営力向上のための定期的な支援（生産部会組織活動への参加など）

3 地域への定着支援
- ●地域コミュニティへの参画支援から地域農業者との交流のためのサポート 支援

■担当部署

本店営農部農業振興課　各地区本部農業振興課

■新規就農担当者による取り組み

地　区	基幹品目	相談件数	研修紹介件数
福島地区	果樹・きゅうり・小菊	20件	5件
伊達地区	果樹・きゅうり	10件	3件
安達地区	きゅうり・ミニトマト	10件	3件
そうま地区	ねぎ・ブロッコリー	10件	3件

■就農希望者のフォローアップ

内　容	回　数	備　考
新規就農相談会	1回/年	地区募集
就農フェア出展	2回/年	本店募集
就農支援会議	都度開催	進捗管理
現地見学会	1回/年	
新規就農応援セミナー	1回/年	

農業技術の継承

のれん分け方式

［ のれん分け方式の取り組みとは ］

地域段階の研修体制や支援体制の充実を図り、農家研修による農業技術の継承や耕作放棄地を再生農地として利用、就農相談から就農定着までの３年間を重点的にサポートします。また、農業経営の第三者継承に取り組み、研修受入先及び離農する担い手の農業経営の第三者継承の取り組みについてサポート・支援します。

就農へのステップ

就農についての相談から安定した農業経営まで、
JAふくしま未来がサポートします。

STEP 1 就農相談

- 各地区の新規就農相談員に就農についての不安や疑問を相談できます。
- トータルサポート体制による新規就農希望者への支援。

地区本部新規就農支援チーム

STEP 2 研修▶1年目

地域農業振興計画を踏まえた方針の策定
- 新規就農者の経営開始から定着さらには、将来に繋がる支援

長期農業研修
- のれん分け方式による受入研修先（師匠）の営農技術習得の支援
- 研修受入先の栽培内容に合わせて農業研修を行う（農業経営の第三者継承含む）
- 関係機関との連携による居住に係る対応

就農準備支援(関係機関協力による面談の実施)
- 営農計画の策定支援・新規就農者育成総合対策事業等関係機関とサポート

農地確保に向けた耕作放棄地の再生利用
- 市町村とJAが離農した農地を再生利用して新規就農を支援

STEP 3 就農▶2年目

のれん分け方式による栽培経営への取り組み(チャレンジ)
- 研修先は実際の栽培園地を設けて栽培に取り組む
- 農地の取得（賃借）、斡旋による就農支援
- 営農開始に伴う施設、機械、資材等の取得支援
- 営農並びに生活に対する資金対策支援
- JA生産部会、直売所等への新規就農者の受入

STEP 4 就農▶3年目

継続的農業技術継承
営農指導員･担い手渉外による定期巡回

1 就農直後
- 就農後の継続的な支援

2 経営発展期
- 経営力向上のための定期的な支援（生産部会組織活動への参加など）

3 継続的農業技術継承
- 新規就農者同士の会合等による定着支援
- 研修先農業技術継承と相互研鑽を目途とした「のれん会」（仮称）などの仕組み構築

4 地域への定着支援
- 地域コミュニティへの参画支援から地域農業者との交流のためのサポート支援
- 地域組織活動参加支援

新規就農者育成総合対策【旧農業次世代人材投資事業（準備型・経営開始型）】

青年等就農資金・農業近代化資金等 各ステップに合わせて資金を紹介※各種要件あり

JA販売高1,000万円経営体拡大に向けた取り組み

JAふくしま未来では、農業事業モデルとして、JA販売高1,000万円農業経営体を令和6年度600戸を目標にかかげ実現に向け取り組んでまいります。

■令和3年度実績

	福島	伊達	安達	そうま	合計
800万円以上~900万円未満	34戸	62戸	19戸	11戸	126戸
900万円以上~1,000万円未満	36戸	52戸	7戸	9戸	104戸
1,000万円以上~	130戸	206戸	89戸	76戸	501戸

■令和6年度目標

800万円以上~900万円未満	150戸
900万円以上~1,000万円未満	130戸
1,000万円以上~	600戸

輸出の取り組み

主な輸出先	タイ･マレーシア･シンガポール等　令和4年1月あんぽ柿がUAE（ドバイ）へ本格輸出開始	
令和3年度実績	モモ・ナシ・リンゴ・あんぽ柿	合計19.4t
令和6年度目標	モモ・ナシ・リンゴ・あんぽ柿・米	合計　90t

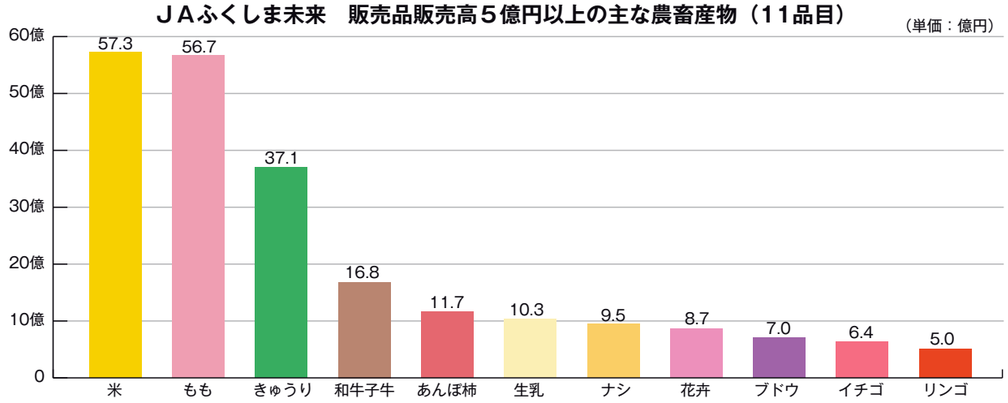
GI制度の取り組み

GI制度は、地域で育まれた伝統と特性を有する農林水産物・食品のうち品質等の特性が産地と結び付いており、その結び付きを特定できるような名称（地理的表示）が付されているものを知的財産として国に登録できる制度です。

当ＪＡでは、令和4年度あんぽ柿のGI登録を目指し、登録を生かしたブランド戦略を展開してまいります。

ＪＡふくしま未来　販売品販売高５億円以上の主な農畜産物（１１品目）

（単価：億円）



JA全体の販売高は、令和3年度288億円　10億円以上が6品目　1億円以上は18品目

東日本大震災・原発事故で落ち込んだ時期（238億円）と比較すると震災後121%と増加していますが、震災前（369億円）と比較すると78%の状況です。

全国有数の果実・野菜産地、浜通りと中通りの環境を生かした米・果実・野菜・花卉・畜産の循環型産地形成と販売高1億品目づくりを進めます。

1営農センター1億円販売高アップの取り組み

農業生産の拡大、新規就農拡大、遊休農地対策、集落営農推進等の各対策を基軸とし、地域性を考慮しながら新規作付を中心に各地区、各営農センターで取り組みを昨年度から開始しております。

目　標（3 か年）:1 営農センター 1 億円販売高アップ

◆営農販売支援の取り組み

●農業振興支援事業

生産者の所得増大、農業生産の拡大と地域農業振興のため、生産者に助成支援を行っています。経営規模の拡大、省力技術の導入等にご利用いただけます。

●担い手給付事業

農業後継者、新規就農者等、新たに農業に取り組む方への助成支援を行っています。

※各事業には、条件等がございますので詳しくは、各地区農業振興課までお問い合わせください。

農業振興支援事業・担い手給付事業
年間合計 2億円　助成　令和4.5.6年度

■梨のジョイント栽培導入

■菊の電照設備の導入

■パイプハウスの新設

◆機械共選機

充実した機械選果場や共選場を整備し、農産物の栽培に専念していただけます。

2021年度新たに福島地区に県内初となる花卉共選施設や安達地域広域きゅうり共選場を新設しました。これまでの共選施設と合わせ農作業省力化および更なる農業生産の拡大を進めてまいります。

主な施設

●きゅうり機械選果場（伊達地区・安達地区）●モモ共選場（福島地区・伊達地区）
●ナシ機械選果場（福島地区・そうま地区）●あんぽ工房みらい（伊達地区）
●長ネギ出荷調整施設（そうま地区）●全農米倉庫集出荷施設R4.9稼働予定（安達地区）
●山木屋ライスセンターR4.秋稼働予定（福島地区）
●新そうまカントリーエレベーターR5.9稼働予定（そうま地区）
●飯舘ライスセンター・ラック式倉庫（そうま地区）
●小高園芸団地R4一部稼働（そうま地区）●小高カントリーエレベーター（そうま地区）

■きゅうり機械選果場（伊達地区）

■モモ共選場（福島・伊達地区）

■あんぽ工房みらい（伊達地区）

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

◆食の安全・安心の取り組み

JGAP認証

第三者認証JGAP団体認証の取り組みによりJAふくしま未来の「誇れる」農畜産物の安全・安心を発信するとともに、GAP取得のメリット（経営管理の高度化、労働生産性の向上、リスクの最小化等）を発揮し、流通、消費者に対するGAP農畜産物の理解促進を図ってまいります。

現在当JAでは青果物GAP部会153名、水稲GAP部会38名の2部会にて取り組みしております。

GAP= Good 良い Agricultural 農業の Practice やり方 「適正なやり方で農業生産しよう!」

認証取得の取り組み

①認証に向けた体制の整備!
②説明会の開催!
③認証取得に向けたサポート!
④新規取り組み生産者の募集!

現在2つのGAP部会により
取り組んでいます。

- **JAふくしま未来青果物GAP部会**
  果物、野菜
- **JAふくしま未来水稲GAP部会**
  米

●第三者認証GAP取得の取り組み

①第三者認証GAP取得の取り組みによる、農畜産物の安全・安心を発信します。
②GAP取得のメリット（経営管理の高度化、労働生産性の向上、リスクの最小化等）を発揮し経営改善を図り、流通・消費者に対するGAP農畜産物の理解促進していきます。
③PRを兼ねた動画作成、トップセールスでのPR活動を展開します。
④量販店バイヤー等との商品アイテム開発に検討、協議してまいります。
⑤市場等、実需者からの安全性に対するニーズに対応したPRを活動を展開してまいります。
⑥GAPに対する消費者認知度向上のため、安心・安全のPR活動とあわせ展開してまいります。
⑦連携協定先をはじめとする量販店へのGAP品販売を拡大してまいります。
※友好協力協定を結んでいる福岡県のエフコープ生活協同組合で当JAのJ-GAP品目を販売しています

◆農の達人

農の達人とは・・・

農業構造が大きく変化する中で、農業者の所得向上を最大の目的として長年の経験と豊富な知識・技術を有する地域の中核農家を「作物別営農技術員」（農の達人）として委嘱し実践的な指導支援、農業技術の継承および向上のためＪＡ営農指導員への助言などの指導補助による営農指導体制の強化を図っています。平成29年度から毎年実施しており、令和３年度は作物毎に15名の方に実践的な技術指導を行っています。

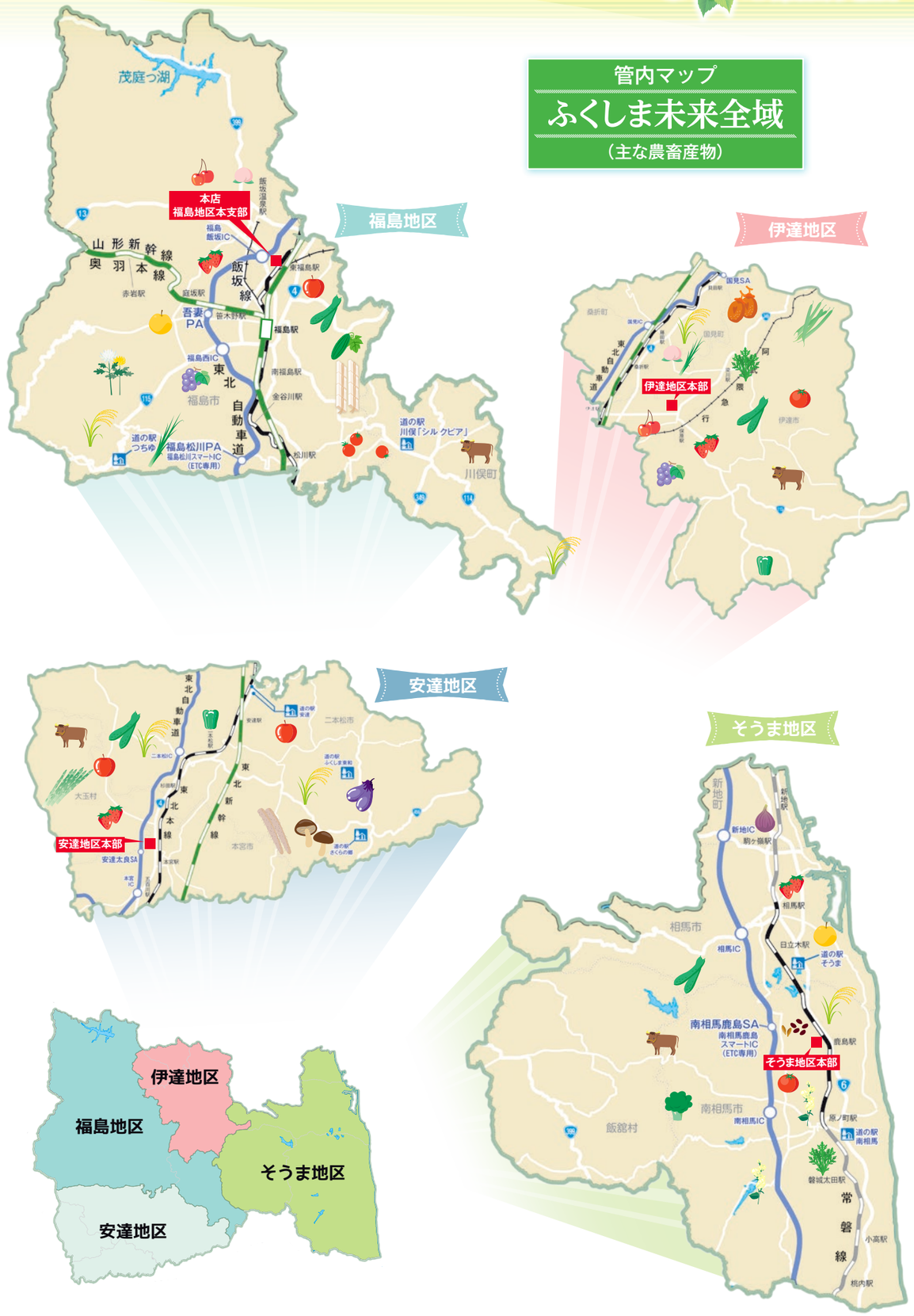
今後においてもさらなる技術向上のために作物別営農技術員を委嘱してまいります。

■令和3年度　農の達人　合計15名

品目	モモ	あんぽ柿	ナシ	ブドウ	きゅうり	園芸	花卉	米
人数	3	1	2	1	3	1	2	2

■令和6年度　農の達人　合計28名

品目	モモ	あんぽ柿	ナシ	果樹	きゅうり	園芸	花卉	米
人数	3	1	2	3	5	7	4	3



収穫カレンダー

※天候により出荷時期が異なる場合があります

JGAP認証農場 登録番号 070000095

JAふくしま未来青果物GAP部会
取得品目
サクランボ、ブドウ、スモモ、リンゴ、モモ、日本ナシ
令和元年12月現在

フルーツカレンダー Fruit calendar

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

サクランボ

カリウム、鉄、リンなどのミネラル成分やカロチン、ビタミンB1、B2、Cを含み、疲労回復や食欲増進、血行促進、疲れ目などに効果があると言われています。

サクランボ 5月～6月

スモモ 6月～9月

スモモ

鉄・カルシウム・カリウム・食物繊維が多く、整腸や便秘、貧血予防に効果があると言われています。

モモ

たんぱく質、糖質、ミネラル類（ナトリウム・カリウム・カルシウム・マグネシウム・リン等）、ビタミン類、食物繊維などが含まれており、新陳代謝を促進させるため利尿作用があると言われ、食物繊維が多く、腸の働きが活発になるため便秘にも効果があると言われています。

モモ 7月～9月

ブドウ

疲労回復・病中、病後の栄養補給に有効であり、特に高血圧を予防するカリウムが含まれ、血圧を下げると言われています。

ブドウ 8月～12月

日本ナシ

梨に含まれるソルビトールは、甘く清涼感のある糖アルコールで、咳止めや解熱効果があるとされています。また、タンパク質を分解する消化酵素のプロテアーゼを含んでおり、調理に使えば肉を柔らかくし、消化を助ける効果があると言われています。

日本ナシ 8月～1月

日本ナシ

イチジク

カルシウムや鉄分など、血や骨の素となるミネラル分をバランスよく含んでいます。また、ポリフェノールの一種「ザクロエラグ酸」や「アントシアニン」も含まれており、美容にも効果を発揮すると言われています。

イチジク 9月～11月

柿 10月～11月

柿

発ガン抑制効果があると言われるカロチンやビタミンCがとても豊富です。また、風邪の予防や二日酔いにもよいとされ、タンニンは、血管を強くして血圧を下げる効果があると言われています。

リンゴ

カリウム、カルシウム、鉄、食物繊維、ビタミンC、有機酸が多く含まれ、健康増進に最適な果物と言われています。

リンゴ 8月～12月

あんぽ柿

食物繊維を多く含む。食物繊維は、発ガン性物質やコレステロールなどの体外排出を助ける働きがあると言われています。

12月～3月

あんぽ柿

西洋ナシ

たんぱく質分解酵素を含むため消化を助けると言われ、また、水溶性食物繊維が多く、血中コレステロール値を調節する作用もあると言われています。

西洋ナシ 9月～12月

あんぽ柿

ベジタブルカレンダー Vegetables calendar

JGAP認証農場 登録番号 070000095

JAふくしま未来青果物GAP部会
取得品目
アスパラガス、ミニトマト、イチゴ、ねぎ、にら、きゅうり
令和元年12月現在

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

にら 10月～4月

にら

ビタミンA・B・C・E、カロチンが豊富に含まれ、整腸作用、疲労回復に効果があると言われています。また、ビタミンB1の吸収をよくするアリシンも含まれています。

にら

しいたけ 9月～3月

しいたけ

菌茸類

低カロリー食品です。コレステロールを減らし血圧を下げ、動脈硬化や脳卒中の予防に効果があると言われています。

春菊 10月～3月

春菊

アスパラガス 3月～9月

春菊

カロチンが豊富で、そのほかミネラル、ビタミンA、B2、カルシウム、鉄を含み、皮膚や粘膜の保護に効果があると言われています。

アスパラガス

さやえんどう・スナップエンドウ 4月～6月

さやえんどう・スナップエンドウ

ビタミンC、ビタミンB群が含まれ、食物繊維の含有率が多く便秘予防・美肌保持に効果があると言われています。

いんげん 6月～9月

いんげん

疲労回復やスタミナアップに効果を発揮すると言われるアスパラギン酸を含んでいます。

きゅうり

カロテン・ビタミンC・ビタミンE・ビタミンB群が豊富に含まれ、またアスパラギン酸が多く含まれていて疲労回復、スタミナ増強に効果があり、穂先に含まれるルチンは毛細血管を丈夫にし、動脈硬化予防に有効と言われています。

きゅうり 5月～10月

きゅうり

きゅうりの利尿作用が、体内の老廃物を排泄し、血液を浄化するので、腎臓病、心臓病に効果があると言われています。

ピーマン

ビタミンC、ビタミンAを豊富に含み。緑色のもとである葉緑素（クロロフィル）はコレステロールが血管に付着するのを防ぎ、体外に排出するのを助けると言われています。

トマト 6月～9月

トマト

ビタミン類やカリウムなどを含み、特に赤い色の元「リコピン」は活性酸素を撃退する抗酸化作用に優れていると言われています。

ピーマン 7月～9月

なす

ポリフェノールの一種「ナスニン」には抗酸化作用があり、免疫力の低下や老化の進行を抑えると言われています。また、コレステロール値を下げる働きがあることもわかっており、生活習慣病や高脂血症の予防も期待できます。

なす 7月～9月

いちご

ビタミンCを豊富に含みます。また、カリウムが多くナトリウムが少ない特有の成分は、利尿作用と高血圧の予防に効果があると言われています。

イチゴ 11月～5月

イチゴ

フラワーカレンダー Flower calendar

❶主な栽培エリア ❷出荷ピーク ❸花言葉 ❹誕生花（誕生日）

1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月

小 菊

❶福島市、二本松市、川俣町、新地町
❷7月新盆前、8月盆前、9月彼岸前
❸高貴、高潔、高尚
❹10/1、11/3、11/23、11/27、12/13

小 菊 6月～11月

スプレーマム

❶二本松市
❷8月盆前、9月彼岸前前
❸高貴、高潔、高尚
❹10/1、11/3、11/23、11/27、12/13

スプレーマム 5月～11月

リンドウ

❶二本松市、川俣町
❷7月新盆前、8月盆前、9月彼岸前
❸悲しんでいるあなたを愛する、正義、誠実
❹8/31、9/16、10/20

リンドウ 6月～11月

ダリア 9月～6月

ダリア

ダリア

❶福島市
❷11月、3月、5月
❸華麗、優雅、気品、移り気、不安定
❹6/5、7/29、9/10、9/15、9/24

トルコキキョウ 6月～10月

トルコキキョウ

❶福島市、川俣町、南相馬市
❷8月
❸すがすがしい美しさ、優美、希望
❹6/28、7/10、7/12、7/20、7/30

シャクヤク

❶福島市、川俣町
❷5月
❸恥じらい、はにかみ、謙遜
❹2/8、5/14、7/24

シャクヤク 5月～6月

ハボタン 12月

花 木

主な出荷品目
[梅、桃、桜、ボケ、レンギョウ、雪柳]

❶福島市、二本松市
❷12月、3月　❸純潔、優れた美人
❹3/28、4/1、4/9、4/11

ハボタン

❶福島市、川俣町
❷12月
❸祝福、物事に動じない、利益
❹11/28、12/4、、12/30

花 木 12月～3月

花 木

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

販売事業方針　令和4年度～令和6年度

主食用米の需要減少により在庫量が増加していることから飼料用米、備蓄米の作付けによる需給調整に取り組むとともに実需者の求める品種の数量確保により販売先の安定確保により価格の安定に努めます。また、大豆・麦の品質向上を図り販売先の安定確保により農家手取りアップに努めます。

GAP（農業生産工程管理）認証や既存の生産履歴管理、放射性物質検査体制等と更なる安全安心への継続、周知により更なる JA ふくしま未来ブランドの向上に努めてまいります。

また、消費地におけるJAふくしま未来の美味い農畜産物のPRのため、動画の作成および、圃場に設置したライブカメラによる産地情報を提供し、市場関係者や量販店等にPRして、風評被害の払拭および、高値販売に努め早期販売高300億円の達成とさらなる販売高アップを目指します。

■全体取り組み事項

○連絡協議会の更なる活性化による出荷規格、出荷資材統一による共計・共販に向けた取り組みの検討（連絡協議会による会議開催）
○各生産部会の考え方の統一
○GAP商品の販路拡大（県・全農との連携した販路拡大）
○輸出の販路拡大（県・全農との連携した販路拡大）
○農産物共選場、集出荷施設等の適切な利用料の設定による収支均衡（利用料、共選費適正な設定）

■園芸戦略（やさい・果樹）福島地区 P16～ 伊達地区 P22～ 安達地区 P32～ そうま地区 P36～

◆営農指導による技術向上、１営農センター１億円販売高アップの取り組み、機械共選機利用による作業効率化とさらなる販売高アップ
◆ライブカメラによる市場関係者等に産地情報の発信 PR 展開による販売単価、販売量アップ

■園芸戦略（花卉）P40～

◆小菊生産による新たな農業経営の複合化を図り経営モデルの形成、栽培マニュアルの形成による地域営農の高収益化の実現
◆小菊原体共選施設の利用による作業労力軽減、および部会統一より組織的なスケールメリットを生かした有利販売

■直販戦略 P41～

◆新規農産物直売所会員の推進
◆農家委託品扱いの向上
◆野菜主要品目の周年出荷対策
◆新たな販路拡大への取り組み

■米穀戦略 P42～

◆主食用米は、安定販売のために品種別集荷数量の確保に取り組む。
◆備蓄米、飼料用米を主体とし需給調整のため転作作物への推進を図り、生産拡大に取り組む。
◆新市場への販路拡大（全農と連携）
◆大型施設（カントリーエレベーター・ライスセンター）利用における高付加価値販売展開

■畜産戦略 P44～

◆肉牛
　●高品質肉牛の生産による上物率向上と銘柄「福島牛」づくり
　●安全安心情報の発信
　●良質肉質の生産と事故率の低減
◆和牛繁殖
　●優良和牛子牛生産と繁殖基盤の強化
　●優良牛生産組織の形成
◆酪農
　●生乳生産の向上と乳質改善
　●適正な個体管理によるコスト削減

◆地区本部別重点取り組み事項

園　芸　戦　略

福島地区

分類	品目	★最重点 ○重点	【取り組み方針および3年後の目指す姿】	重点事項
【果実】	モモ	★	病害虫防除の徹底を図り園地でのロスを減少させることで、出荷量の安定化・出荷量増を目指す。 低樹高化並びに軽労化を推進することにより栽培面積減少を食い止め出荷量を確保し、高齢者にやさしいモモ栽培・新規就農者が就農しやすい産地を目指す。 品種植栽方針により、品種構成の見直しを進め早生から極晩生までバランスの良い品種構成とし、切れ目のない長期販売により販売力強化を図る。	①せん孔細菌病撲滅 ②低樹高化の推進 ⇒高齢化及び作業時負担軽減対策 ③もも品種植栽方針による植栽割合の均衡
	ナシ	★	病害虫防除の徹底を図り園地でのロスを減少させることにより、出荷量の安定化・出荷量増を目指す。 早期成園化技術の導入により、改植による収穫量の減少を最低限とする。	①黒星病の撲滅 ②早期成園化技術の導入
	リンゴ	★	優良着色系の導入を図ることにより、上位等級の増産を図るとともに、着色管理の労力軽減を図り、収益の確保に努める。 HTS仕立ての導入により、低樹高化及び早期からの収量・品質確保により増収・増益を図る。	①優良着色系ふじへの更新 ②低樹高化、早期成園化の推進
	ブドウ	★	バランスの取れた品種構成により、出荷量の維持・拡大を図る。 出荷量の調整と単価確保を図るため、予冷庫の利用により出荷時期の分散・長期出荷体制を構築する。	①優良品種の導入 ②販売時期平準化対策
	サクランボ	○	果実のシーズンスタートの品目として、出荷量の安定確保を目指す。	①佐藤錦安定生産のための品種構成と栽培技術
	その他	果実共通	将来を見据えた、果実集出荷施設の検討	①果実共選場の整備
【そさい】	きゅうり	★	支援事業等の活用により簡易施設（雨除けハウス等）の導入を図り、品質向上並びに収穫期間の延長により増収・増益を目指す。	①増収対策 ②出荷量の向上
	ミニトマト	○	支援事業の活用により環境制御を使用しながら品質及び収量増収を目指す。	①増収対策 ②出荷量の向上
	スナップ・いんげん類	○	きゅうり終了後の作付けや単作での栽培者の増加を目指す。	①増収対策 ②出荷量の向上 ③栽培者確保

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

実施事項	具体策	計画（年度）		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
・防除指導の強化 ・耕種的防除の指導徹底 ・各地区での指導会開催 ・あかつき偏重の是正 ・部会による目標割合の検討	・防除情報による適期防除 ・春先からの作業実施指導徹底 ⇒枝病斑切除の日の設定、広報 ・せん定⇒摘らい⇒的か各指導会 ・品種植栽方針の提示 ・改植事業及び苗木取りまとめに於ける目標割合への誘導（苗木の確保）	年6回 年3回 年5回 あかつき 50%	年6回 年3回 年5回 あかつき 48%	年6回 年3回 年5回 あかつき 45%
・防除指導の強化 ・耕種的防除の指導徹底 ・ジョイント仕立ての導入指導	・防除情報による適期防除 ・耕種的防除指導会の開催 ⇒落葉処理、芽基部病斑切除 ・支援事業による特許料助成	全園地 1箇所 2.5ha	全園地 1箇所 2.6ha	全園地 1箇所 2.7ha
・コスモふじ、宮美ふじの導入促進 ・HTSの導入促進	・長穂接ぎ講習会の開催 ・紅一（葉取らず）での有利販売と労力軽減 ・講習会開催	2回 30t 2回	2回 40t 2回	2回 50t 2回
・シャインマスカットの導入促進 ・予冷による販売時期の調整	・苗木取りまとめに於ける導入誘導 ・予冷庫導入助成及びJA施設利用推進	2ha 3t	3ha 4t	4ha 5t
・佐藤錦優良系統の導入 ・地元で育成された静御前の試験栽培	・苗木取りまとめによる導入誘導	2ha 0.1ha	3ha 0.2ha	4ha 0.3ha
・規模の把握	・現状の再確認と今後の出荷量のシュミレーション	調査	調査	調査
・反収の向上 ・栽培期間の長期化 ・新規栽培者の確保及び系統誘導	・環境制御技術の普及・拡大 ・施設化、省力化機器の導入推進 ・個別巡回の強化、任意組合等との協議 ・募集説明会の開催	導入者22名 新規3名 露地　7ha 施設　13ha 露地　420t 施設　1,000t	導入者25名 新規3名 露地　7.5ha 施設　13.5ha 露地　450t 施設　1,050t	導入者27名 新規3名 露地　8ha 施設　14ha 露地　500t 施設　1,070t
①環境制御の使用 ②優良品種検討 ③液肥肥料などの活用	①環境制御指導会の推進 ②巡回強化	230a 110t	240a 120t	250a 130t
①栽培者推進	①栽培者説明会を実施する また、露地きゅうりの後作の方に推進していく。	28a 10t	35a 13t	40a 15t

桃之介

福島地区　品目別販売方針（数値計画）

品目名　モモ

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	早生種	252	4,261	275,200	1,200	147,277
	中生種	954	25,847	1,957,800	1,500	1,202,610
	中晩生種	558	6,535	589,420	1,500	386,718
	晩生種	578	14,428	990,475	1,400	699,410
	合計	**2,342**	**51,071**	**3,812,895**		**2,436,015**

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	早生種	255	4,270	316,766	1,200	190,060
	中生種	950	25,900	2,390,100	1,500	1,434,060
	中晩生種	555	6,540	828,966	1,500	497,380
	晩生種	582	14,430	1,414,168	1,400	848,500
	合計	**2,342**	**51,140**	**4,950,000**		**2,970,000**
令和5年度	早生種	255	4,270	334,960	1,200	200,976
	中生種	950	25,900	2,408,700	1,500	1,445,220
	中晩生種	555	6,540	850,200	1,500	510,120
	晩生種	582	14,430	1,487,240	1,400	892,344
	合計	**2,342**	**51,140**	**5,081,100**		**3,048,660**
令和6年度	早生種	260	4,270	341,500	1,200	204,931
	中生種	950	25,900	2,456,100	1,500	1,473,663
	中晩生種	555	6,540	866,900	1,500	520,159
	晩生種	582	14,430	1,516,500	1,400	909,907
	合計	**2,347**	**51,140**	**5,181,000**		**3,108,660**

品目名　ナシ

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	早生種	505	10,446	483,110	1,500	219,782
	中生種	529	18,042	1,032,550	1,500	381,382
	晩生種	482	6,147	122,150	1,300	48,730
	合計	**1,516**	**34,635**	**1,637,810**		**649,894**

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	早生種	505	10,440	783,000	1,500	274,050
	中生種	530	18,100	1,397,720	1,500	489,202
	晩生種	480	6,150	319,280	1,300	111,748
	合計	**1,515**	**34,690**	**2,500,000**		**875,000**
令和5年度	早生種	505	10,440	855,320	1,500	299,362
	中生種	530	18,100	1,461,240	1,500	511,434
	晩生種	480	6,150	399,100	1,300	139,685
	合計	**1,515**	**34,690**	**2,715,660**		**950,481**
令和6年度	早生種	505	10,440	939,600	1,500	328,860
	中生種	530	18,100	1,576,960	1,500	551,936
	晩生種	480	6,150	399,100	1,300	139,685
	合計	**1,515**	**34,690**	**2,915,660**		**1,020,481**

品目名　リンゴ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	早生種	150	750	86,280	1,500	21,822
	中晩生種	525	4,061	267,700	1,800	67,764
	サンふじ	742	24,210	1,279,300	2,000	356,775
	合計	**1,417**	**29,021**	**1,633,280**		**446,361**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	早生種	150	750	90,000	1,500	22,500
	中晩生種	525	4,061	365,400	1,800	91,350
	サンふじ	742	24,210	2,144,600	2,000	536,150
	合計	**1,417**	**29,021**	**2,600,000**		**650,000**
令和5年度	早生種	150	750	90,000	1,500	22,500
	中晩生種	525	4,061	401,940	1,800	100,485
	サンふじ	742	24,210	2,200,980	2,000	550,245
	合計	**1,417**	**29,021**	**2,692,920**		**673,230**
令和6年度	早生種	150	750	90,000	1,500	22,500
	中晩生種	525	4,061	438,480	1,800	109,620
	サンふじ	742	24,210	2,214,440	2,000	553,610
	合計	**1,417**	**29,021**	**2,742,920**		**685,730**

品目名　ブドウ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	巨峰	79	1,446	65,443	1,000	64,609
	ピオーネ	53	517	28,433	1,000	28,261
	シャインマスカット	118	1,138	38,907	800	66,800
	その他	65	892	12,795	600	11,331
	合計	**315**	**3,993**	**145,578**		**171,001**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	巨峰	79	1,446	69,120	1,000	82,944
	ピオーネ	53	517	29,070	1,000	34,884
	シャインマスカット	118	1,138	47,912	1,000	57,494
	その他	65	892	13,898	600	16,678
	合計	**315**	**3,993**	**160,000**		**192,000**
令和5年度	巨峰	79	1,446	70,417	1,000	84,500
	ピオーネ	53	517	29,615	1,000	35,538
	シャインマスカット	118	1,138	48,810	1,000	58,572
	その他	65	892	14,158	600	16,990
	合計	**315**	**3,993**	**163,000**		**195,600**
令和6年度	巨峰	79	1,446	71,714	1,000	86,057
	ピオーネ	53	517	30,160	1,000	36,192
	シャインマスカット	118	1,138	49,708	1,000	59,649
	その他	65	892	14,418	600	17,302
	合計	**315**	**3,993**	**166,000**		**199,200**

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

品目名　サクランボ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	サクランボ	69	2,102	13,844	600	39,890

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	サクランボ	70	2,110	22,000	600	44,000
令和5年度	サクランボ	73	2,115	22,000	600	44,000
令和6年度	サクランボ	75	2,120	22,000	600	44,000

品目名　きゅうり

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	露地	69	694	418,100	5,800	107,121
	ハウス（加温）	27	343	352,950	12,000	90,965
	ハウス（無加温）	30	150	157,730	7,000	40,958
	ハウス（雨よけ）	18	30	17,830	7,500	3,649
	ハウス（抑制）	60	838	419,085	10,000	126,634
	合計	**204**	**2,055**	**1,365,695**	**42,300**	**369,327**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	露地	72	750	494,075	7,000	172,576
	ハウス（加温）	27	360	417,710	12,000	1,46,548
	ハウス（無加温）	30	160	188,525	10,000	65,984
	ハウス（雨よけ）	20	35	16,760	7,500	5,878
	ハウス（抑制）	60	838	582,900	10,000	204,014
	合計	**209**	**2,143**	**1,7000,000**	**46,500**	**595,000**
令和5年度	露地	72	750	504,705	7,000	176,076
	ハウス（加温）	27	360	417,710	12,000	146,548
	ハウス（無加温）	30	160	188,525	10,000	65,984
	ハウス（雨よけ）	20	35	16,790	7,500	5,878
	ハウス（抑制）	60	838	582,900	10,000	204,014
	合計	**209**	**2,143**	**1,710,000**	**46,500**	**598,500**
令和6年度	露地	75	770	524,075	7,000	183,076
	ハウス（加温）	27	360	417,710	12,000	146,548
	ハウス（無加温）	30	160	188,525	10,000	65,984
	ハウス（雨よけ）	20	35	16,790	7,500	5,878
	ハウス（抑制）	60	838	582,900	10,000	204,014
	合計	**212**	**2,163**	**1,730,000**	**46,500**	**605,500**

品目名　ミニトマト

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	ミニトマト	45	230	97,890	3,000	59,496

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	ミニトマト	45	235	120,000	35,000	72,000
令和5年度	ミニトマト	45	240	130,000	4,000	78,000
令和6年度	ミニトマト	45	250	140,000	4,500	84,000

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

品目名　えんどう類

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	スナップエンドウ	10	28	1,050	500	5,280
	いんげん	20	32	904	500	4,658
	合計	**30**	**60**	**1,954**	**1,000**	**9,938**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	スナップエンドウ	12	30	5,000	600	5,000
	いんげん	22	60	10,000	700	8,000
	合計	**34**	**90**	**15,000**	**1,300**	**13,000**
令和5年度	スナップエンドウ	14	32	6,000	700	6,000
	いんげん	24	80	11,000	800	8,800
	合計	**38**	**112**	**17,000**	**1,500**	**14,800**
令和6年度	スナップエンドウ	15	35	7,000	750	7,000
	いんげん	25	120	12,000	850	9,600
	合計	**40**	**155**	**19,000**	**1,600**	**16,600**

福島地区経営モデル

農業所得規模：A1,000万円・B500万円・C300万円・D200万円

●経営モデルA　きゅうり

経営の概要：きゅうり（ハウス）：面積70a
家族経営、専従者：3名、雇用労働力：2名

粗収入
●きゅうり　2,520万円

粗費用
1,510万円

農業所得
1,010万円

●経営モデルA　モモ+リンゴ

経営の概要：モモ（早生・中生・晩生）：面積200a
リンゴ（サンふじ）：面積70a
専従者：2名、雇用労働力有

粗収入
●モモ　1,600万円
●リンゴ　300万円

粗費用
900万円

農業所得
1,000万円

●経営モデルA　ナシ+モモ

経営の概要：ナシ（幸水~秋峰）：面積250a
モモ（早生・中生・晩生）：面積30a
専従者：2名、雇用労働力有

粗収入
●ナシ　1,650万円
●モモ　260万円

粗費用
910万円

農業所得
1,000万円

●経営モデルA　サクランボ+モモ+リンゴ

経営の概要：サクランボ（佐藤錦）：面積50a
モモ（中生~極晩生）：面積100a
リンゴ（サンふじ）：面積50a、専従者：2名、雇用労働力有

粗収入
●サクランボ（佐藤錦）　750万円
●モモ　800万円
●リンゴ　200万円

粗費用
700万円

農業所得
1,050万円

●経営モデルC　スナップエンドウ+きゅうり+春菊

経営の概要：スナップエンドウ：面積20a
きゅうり：面積20a
春菊：面積20a、専従者：2名

粗収入
●スナップエンドウ　200万円
●きゅうり　400万円
●春菊　140万円

粗費用
440万円

農業所得
300万円

●経営モデルD　きゅうり+水稲+直売所

経営の概要：きゅうり(露地)：面積20a
水稲：面積50a
直売所：面積30a、専従者：2名

粗収入
●きゅうり　400万円
●水稲　30万円
●直売所　200万円

粗費用
380万円

農業所得
250万円

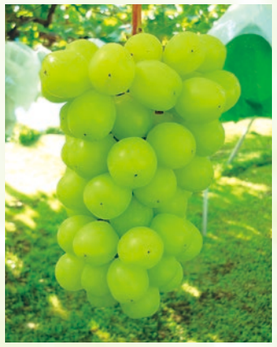
※令和2年度基準　農業所得には専従者給与含む

◆地区本部別重点取り組み事項

▶園　芸　戦　略

伊達地区

分類	品目	★最重点 ○重点	【取り組み方針および3年後の目指す姿】	重点事項	実施事項	具体策	計画（年度） 令和4年度	令和5年度	令和6年度
【果実】	モモ	★	品種構成の見直しを進め、栽培労力分散と品種リレーによる長期安定出荷を図り、ブランド化を進め、販売力の強化を行う。 また、各種事業を活用した上で、改植により老木を解消し、面積の維持・拡大を行うことで安定した出荷量を確保し、次代を担う担い手の確保に努める。	①品種構成の確立と分散化	早生：20　中生：40　中晩生：10 晩生：20　極晩生：10	面積調査に基づいた品種構成確立、補助事業の利用	総面積576ha （中生278ha）	総面積581ha （中生276ha）	総面積586ha （中生270ha）
				②穿孔細菌病対策	総合的防除継続の実施（耕種・薬剤・防風ネット）	発生量の把握と情報発信、補助事業を活用した継続推進（防風ネット）	1.5ha	1.5ha	1.5ha
				③優良品種（系統）の選抜	優良品種の検討と品種リレーの検討	作付け及び検討	年1回	年1回	年1回
	あんぽ柿	★	早期の加工自粛解除を目指し、震災以前の産地の姿を取り戻す。 また、生産基盤を維持・発展させるため、さらなるブランド力強化を図り、数量維持の観点からあんぽ工房みらいの有効活用を進める。	①加工自粛の早期解除	ほ場詳細調査によるリスク樹特定と出荷実績のない生産者への対応	伐採・改植によるリスク樹の解消と詳細調査による安全性の確認	対象の50%	対象の75%	対象の100%
				②ブランド化の確立	GI認証登録	早期のGI認証登録とGI認証を活かしたブランド戦略の構築	登録	継続	継続
				③あんぽ工房みらいの有効活用	出荷調整作業の労力軽減	あんぽ工房みらいの包装利用への誘導	包装利用者数 75名	包装利用者数 80名	包装利用者数 85名
	ブドウ	★	バランスの取れた品種構成を図り、出荷数量の維持・拡大を図る。 また、単価確保の観点より、貯蔵による出荷数量の拡大を図り、長期間の出荷体制を構築する。	①生産基盤確保	主要3品種（巨峰・ピオーネ・シャインマスカット）の面積維持・拡大	品種別の栽培推進（現状：巨峰23.1ha、ピオーネ8.5ha、シャインマスカット19.0ha　計50.6ha）	栽培面積 51.0ha	栽培面積 51.5ha	栽培面積 52.0ha
				②長期貯蔵出荷の数量拡大	貯蔵技術の確立と貯蔵実施の推進	JA全農福島「福島ベジフル館」に新設された冷蔵庫利用への誘導	冷蔵庫利用者 10名	冷蔵庫利用者 15名	冷蔵庫利用者 20名
				③早期成園技術の導入	根圏制御栽培の導入推進	既存取り組み者・関係機関と連携し、現地検討会を実施した上で推進を図る	取り組み者数 2名	取り組み者数 3名	取り組み者数 4名



きゅうり之介

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

分類	品目	★最重点 ○重点	【取り組み方針および3年後の目指す姿】	重点事項
【そさい】	きゅうり	★	機械共選の利用を軸として、施設化の推進、新規栽培者の確保へ取り組み、産地として生産基盤の拡大と更なる発展を図っていく。	①長期安定出荷と品質確保 ②作業の省力化 ③優良品種の選定
	イチゴ	★	これまでの経験や技術を活かしながらも、環境制御技術を定着化させることで、ハウス内環境の「見える化」を図り、栽培環境を見直すことで、品質及び収量の改善に努めていく。	①収量の改善と向上 ②暖候期（3月～）の品質確保と安定 ③優良品種の模索
	にら	○	優良品種への切替えを積極的に推進し、品質および収量の向上に努めていく。併せて、残留農薬に対するリスクを念頭に置きながら安全安心な農薬使用指導の徹底を図っていく。	①品質および収量の向上 ②残留農薬事故の未然防止
	春菊	○	栽培管理の容易性を活かしながら「露地」「ハウス」の各作型ともに、遊休農地への作付けや前作物からの後作としての栽培を積極的に推進し、併せて、残留農薬に対するリスクを念頭に置きながら安全安心な農薬使用指導の徹底を図っていく。	①生産基盤の確保 ②残留農薬事故の未然防止
	アスパラガス	○	きゅうり以外の品目提案として、新規栽培者の推進により、生産基盤の拡大を図っていく。	①生産基盤の確保 ②新規栽培の確保
	えんどう類	○	春を代表する換金作物として更なる定着化を進めていくために、新規就農相談時や栽培品目を転換する時、きゅうり等との輪作等、汎用性が高いメリットを最大限に活かしながら産地形成の維持向上を図っていく。	①生産基盤の確保

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

実施事項	具体策	計画（年度）		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
施設化・潅水設備・高温対策の推進	助成事業の利用推進 （現状：施設割合59%）	施設割合 61%	施設割合 63%	施設割合 65%
機械共選施設の利用	新規・既存栽培者への利用推進 （現状：61%）	機械利用率 64%	機械利用率 67%	機械利用率 70%
優良品種の導入および品種の絞り込み	試験栽培の実施	試験栽培 0.2ha	試験栽培 0.2ha	試験栽培 0.2ha
環境制御技術の定着化と共有	「伊達イチゴスタディクラブ」の設置と定期的な環境制御施設栽培技術研修会の開催	10回開催 ※7・8月除く	10回開催 ※7・8月除く	10回開催 ※7・8月除く
収穫及びパック詰め作業に係る労力軽減	イチゴパッケージセンター利用の誘導 （現状の利用出荷者数25名）	利用出荷者数 28名	利用出荷者数 32名	利用出荷者数 35名
定着可能な品種の検討（福島14号）	実証栽培の実施と作付推進	実証栽培 0.1ha	実証栽培 0.5ha	実証栽培 1ha
優良品種への切替推進	部会推奨品種への切替推進 （現状：推奨品種の構成比率49%）	構成比率 53%	構成比率 56%	構成比率 60%
農薬適正使用指導の実施	栽培管理指導会や出荷目揃い会、巡回指導の徹底 残留農薬自主分析による安全性の担保	残留農薬事故 0件	残留農薬事故 0件	残留農薬事故 0件
作付推進による栽培面積の確保	「露地」「ハウス」の作型毎に栽培推進（現状：露地3.2ha、ハウス9.45ha）出荷数量の向上（現状：170t）	露地:3.3ha ハウス:9.65a 172t	露地:3.4ha ハウス:9.85a 173t	露地:3.45ha ハウス:9.95a 174t
農薬適正使用指導の実施	栽培管理指導会や出荷目揃い会、巡回指導の徹底 残留農薬自主分析による安全性の担保	残留農薬事故 0件	残留農薬事故 0件	残留農薬事故 0件
新規作付・施設化の推進	助成事業の利用推進 （現状：栽培面積4.61ha）	栽培面積 4.67ha	栽培面積 4.73ha	栽培面積 4.8ha
新規就農者への品目提案	新規栽培者向け講習会の開催	年1回	年1回	年1回
作付推進による栽培面積の確保	品目毎の栽培推進（現状：さやえんどう11ha　スナップエンドウ22ha　計34ha）	栽培面積 34.35ha	栽培面積 34.65ha	栽培面積 34.85ha

伊達地区　品目別販売方針（数値計画）

品目名　モモ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	早生種	717	10,340	724,902	1,400	411,610
	中生種	1,148	30,209	2,321,770	1,500	1,466,948
	中晩生種	633	6,150	582,378	1,600	383,277
	晩生種	647	10,899	1,033,117	1,800	707,044
	合計	**3,145**	**57,597**	**4,662,167**	**1,575**	**2,968,879**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	早生種	720	10,750	805,600	1,500	465,200
	中生種	1,148	27,800	2,638,500	1,600	1,582,900
	中晩生種	640	6,750	707,400	1,700	442,500
	晩生種	660	12,300	1,310,500	1,900	786,600
	合計	**3,168**	**57,600**	**5,462,000**	**1,675**	**3,277,200**
令和5年度	早生種	730	11,000	822,000	1,650	493,000
	中生種	1,150	27,600	2,630,400	1,700	1,579,000
	中晩生種	645	7,000	712,400	1,850	427,500
	晩生種	670	12,500	1,315,200	2,000	788,500
	合計	**3,195**	**58,100**	**5,480,000**	**1,800**	**3,288,000**
令和6年度	早生種	740	11,600	860,000	1,800	516,000
	中生種	1,150	27,000	2,620,000	1,800	1,572,000
	中晩生種	650	7,500	722,500	2,000	433,500
	晩生種	680	12,500	1,327,500	2,200	796,500
	合計	**3,220**	**58,600**	**5,530,000**	**1,950**	**3,318,000**

品目名　あんぽ柿

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	販売額(千円)
令和3年度	蜂屋柿	593	32,000	600,000	1,020,000
	平核無柿	194	5,800	50,000	90,000
	合計	**787**	**37,800**	**650,000**	**1,110,000**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	販売額(千円)
令和4年度	蜂屋柿	593	32,000	879,150	1,318,725
	平核無柿	194	5,800	90,000	135,000
	合計	**787**	**37,800**	**969,150**	**1,453,725**
令和5年度	蜂屋柿	593	32,000	880,000	1,320,000
	平核無柿	194	5,800	90,000	135,000
	合計	**787**	**37,800**	**970,000**	**1,455,000**
令和6年度	蜂屋柿	593	32,000	880,000	1,320,000
	平核無柿	194	5,800	90,000	135,000
	合計	**787**	**37,800**	**970,000**	**1,455,000**

品目名　ブドウ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	巨峰	59	2,310	133,534	1,500	138,997
	ピオーネ	41	850	54,820	1,500	59,030
	シャインマスカット	74	1,900	144,616	1,600	304,991
	その他	30	830	31,424	1,500	32,658
	合計	**204**	**5,890**	**364,394**	**1,500**	**535,676**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	巨峰	59	2,310	130,000	1,500	130,000
	ピオーネ	40	800	55,000	1,500	55,000
	シャインマスカット	76	1,990	155,000	1,600	224,750
	その他	29	800	37,800	1,500	24,721
	合計	**204**	**5,900**	**377,800**	**1,500**	**434,471**
令和5年度	巨峰	59	2,310	130,000	1,500	130,000
	ピオーネ	39	750	45,000	1,500	45,000
	シャインマスカット	78	2,090	165,000	1,600	247,500
	その他	28	780	30,000	1,500	21,500
	合計	**204**	**5,930**	**370,000**	**1,500**	**444,000**
令和6年度	巨峰	59	2,310	130,000	1,500	140,000
	ピオーネ	38	700	40,000	1,500	40,000
	シャインマスカット	80	2,190	170,000	1,600	273,000
	その他	27	750	30,000	1,500	28,000
	合計	**204**	**5,950**	**370,000**	**1,500**	**481,000**

品目名　きゅうり

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	露地	420	3,551	2,247,703	6,291	732,275
	ハウス（加温）	4	26	24,930	9,588	8,072
	ハウス（雨よけ）	405	3,710	3,828,975	9,661	1,213,263
	ハウス（抑制）	178	1,255	692,371	5,477	253,655
	自根	9	42	14,670	3,331	6,414
	その他			243,562		81,916
	合計	**575**	**8,584**	**7,052,211**	**8,216**	**2,295,594**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	露地	410	3,350	2,190,304	6,538	766,606
	ハウス（加温）	4	26	25,000	9,615	8,750
	ハウス（雨よけ）	415	3,900	3,636,849	9,325	1,272,897
	ハウス（抑制）	180	1,320	698,159	5,289	244,356
	自根	9	40	20,600	5,150	7,210
	その他			273,788		95,826
	合計	**580**	**8,636**	**6,844,700**	**7,926**	**2,395,645**
令和5年度	露地	400	3,200	2,202,304	6,882	770,806
	ハウス（加温）	4	26	25,000	9,615	8,750
	ハウス（雨よけ）	425	4,060	3,657,024	9,007	1,279,958
	ハウス（抑制）	185	1,360	701,984	5,162	245,695
	自根	9	40	20,600	5,150	7,210
	その他			275,288		96,351
	合計	**585**	**8,686**	**6,882,200**	**7,923**	**2,408,770**
令和6年度	露地	386	3,060	2,112,304	7,381	739,306
	ハウス（加温）	4	26	25,000	9,615	8,750
	ハウス（雨よけ）	440	4,210	3,816,699	9,066	1,335,845
	ハウス（抑制）	190	1,400	705,809	5,041	247,033
	自根	9	40	20,600	5,150	7,210
	その他			276,788		96,876
	合計	**590**	**8,736**	**6,957,200**	**7,964**	**2,435,020**

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

品目名　イチゴ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	とちおとめ	91	1,340	510,350	3,400	510,350

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	とちおとめ	90	1,325	478,750	3,613	478,750
令和5年度	とちおとめ	89	1,310	470,000	3,588	470,000
令和6年度	とちおとめ	88	1,300	465,000	3,577	488,250

品目名　にら

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	にら	83	1,028	243,373	2,427	153,756

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	にら	81	1,014	253,550	2,500	164,808
令和5年度	にら	79	1,000	250,000	2,500	162,500
令和6年度	にら	77	980	245,000	2,500	159,250

品目名　春菊

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	さとゆたか（露地）	52	320	30,000	938	16,000
	さとあきら（ハウス）	127	945	140,000	1,481	100,000
	合計	**179**	**1,265**	**170,000**	**1,344**	**116,000**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	さとゆたか（露地）	54	330	30,250	917	15,000
	さとあきら（ハウス）	130	965	142,050	1,472	96,995
	合計	**184**	**1,295**	**172,300**	**1,331**	**111,995**
令和5年度	さとゆたか（露地）	56	340	30,500	897	15,000
	さとあきら（ハウス）	135	985	142,500	1,447	97,450
	合計	**191**	**1,325**	**173,000**	**1,306**	**112,450**
令和6年度	さとゆたか（露地）	58	345	31,000	899	15,000
	さとあきら（ハウス）	140	995	143,000	1,437	98,100
	合計	**198**	**1,340**	**174,000**	**1,229**	**113,100**

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

品目名　アスパラガス

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	アスパラガス	33	461	30,062	2,000	38,865

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	アスパラガス	34	467	34,750	2,000	43,438
令和5年度	アスパラガス	35	473	35,750	2,000	44,688
令和6年度	アスパラガス	36	480	36,750	2,000	45,938

品目名　えんどう類

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	さやえんどう	405	1,100	60,881	1,200	66,861
	スナップエンドウ	524	2,300	145,692	1,200	162,909
	合計	**929**	**3,400**	**206,573**	**1,200**	**229,770**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	さやえんどう	400	1,085	59,853	1,200	56,861
	スナップエンドウ	530	2,350	153,250	1,200	145,588
	合計	**930**	**3,435**	**213,103**	**1,200**	**202,449**
令和5年度	さやえんどう	400	1,085	59,853	1,200	54,861
	スナップエンドウ	535	2,380	153,250	1,200	145,588
	合計	**935**	**3,465**	**213,103**	**1,200**	**200,449**
令和6年度	さやえんどう	400	1,085	59,853	1,200	54,861
	スナップエンドウ	540	2,400	153,250	1,200	145,588
	合計	**940**	**3,485**	**213,103**	**1,200**	**200,449**

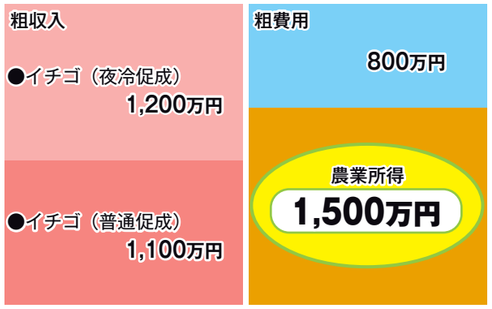
柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

伊達地区経営モデル

農業所得規模：A1,000万円・B500万円・C300万円・D200万円

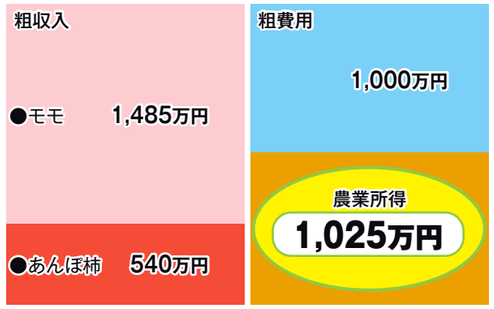
●経営モデルA　イチゴ

経営の概要：イチゴ（夜冷促成）：面積20a
イチゴ（普通促成）：面積20a
高設栽培+土耕栽培、家族経営
専従者：3名



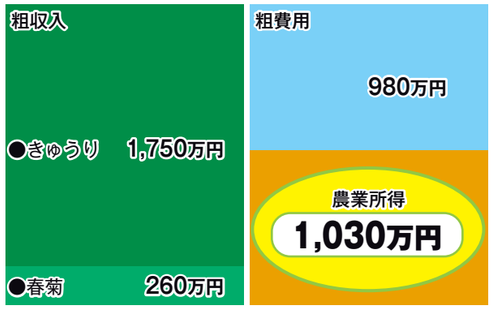
●経営モデルA　モモ+あんぽ柿

経営の概要：モモ（早生・中生・晩生）：面積150a
あんぽ柿（蜂屋）：面積80a
専従者：1名
雇用労働力有



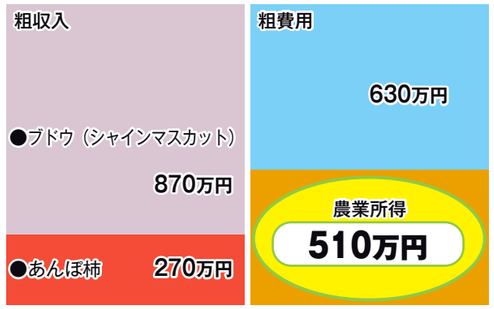
●経営モデルA　きゅうり+春菊

経営の概要：きゅうり（雨よけ）：面積50a
春菊（ハウス）：面積20a
雇用労働力有



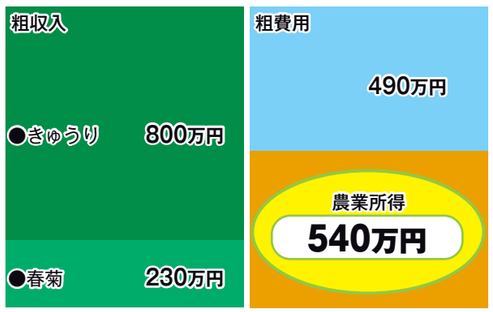
●経営モデルB　ブドウ（シャインマスカット）+あんぽ柿

経営の概要：ブドウ（シャインマスカット）：面積30a
あんぽ柿：面積40a
専従者：1名
雇用労働力有



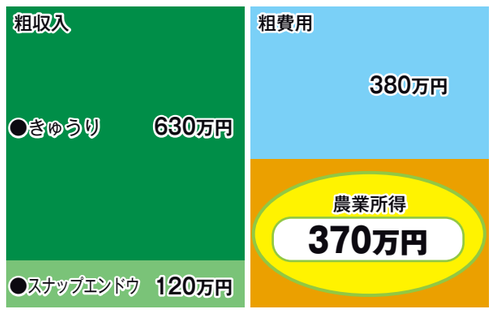
●経営モデルB　きゅうり+春菊

経営の概要：きゅうり（雨よけ・抑制）：面積25a
春菊（ハウス）：面積18a
雇用労働力有



●経営モデルC　きゅうり+スナップエンドウ

経営の概要：きゅうり（雨よけ）：面積18a
スナップエンドウ（ハウス）：面積10a
雇用労働力有



※令和2年度基準　農業所得には専従者給与含む

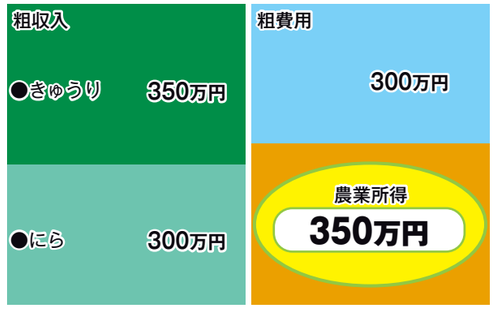
柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

伊達地区経営モデル

農業所得規模：A1,000万円・B500万円・C300万円・D200万円

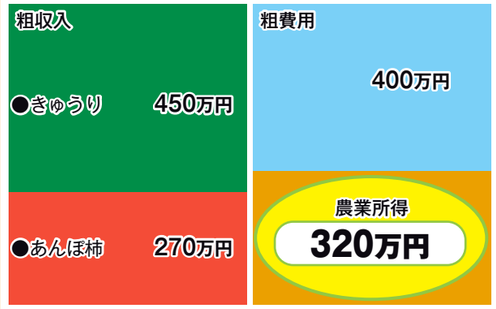
●経営モデルC　きゅうり+にら

経営の概要：きゅうり（雨よけ）：面積10a
にら（ハウス）：面積20a
専従者：1名



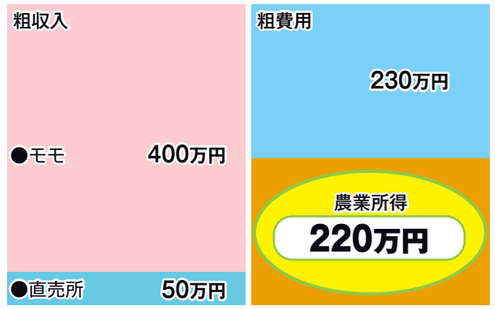
●経営モデルC　きゅうり+あんぽ柿

経営の概要：きゅうり（雨よけ）：面積15a
あんぽ柿（蜂屋）：面積40a
雇用労働力有



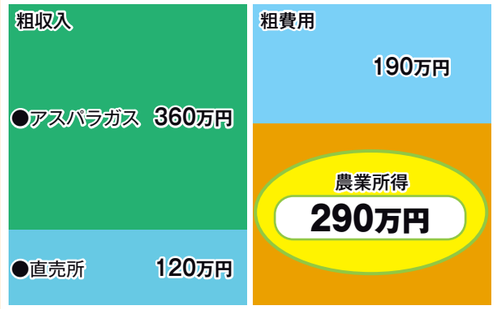
●経営モデルD　モモ+直売所

経営の概要：モモ：面積40a
直売所
雇用労働力有



●経営モデルD　アスパラガス+直売所

経営の概要：アスパラガス（ハウス）：面積15a
直売所：面積5a



※令和2年度基準　農業所得には専従者給与含む

桃之介　きゅうり之介　べぇ子　米之介

◆地区本部別重点取り組み事項

▶園　芸　戦　略

安達地区

分類	品目	★最重点 ○重点	【取り組み方針および3年後の目指す姿】	重点事項
【そさい】	きゅうり	★	行政補助事業、全農、JA助成事業の活用による施設栽培の生産面積拡大および、出荷の長期化を図り、新規生産者の拡大及び機械共選場の利活用による販路拡大を進める	①生産拡大 ②作型分化による長期間出荷 ③施設導入の推進 ④適正品種の選定
	ミニトマト	★	行政補助事業、全農、JA助成事業の活用による施設栽培の生産面積拡大により、出荷の長期化を図り、新規生産者の拡大による販路拡大を進める	①生産拡大 ②作型分化による長期間出荷 ③施設導入の推進 ④高温対策資材の導入
	ねぎ	★	育苗労力の軽減と栽培面積確保、作型分化による長期出荷および安定生産と有利販売を図る	①生産拡大 ②作型分化による長期間出荷 ③販売力強化
	なす	○	小面積でも栽培、出荷可能な利点を生かし、遊休畑地への作付推進を図る	①生産拡大 ②作型分化+かん水設備による長期間出荷
【特産】	菌茸類	○	原木種菌等補助事業活用による生産基盤維持により生産継続を図る	①反収・秀品率アップ ②県単補助事業活用

実施事項	具体策	計画（年度）		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規増反推進	機械選果利用による農家労力軽減	実施	実施	実施
露地抑制タイプの増反推進	補助事業、助成事業の活用によるハウス	150a	175a	200a
露地作からパイプハウスの導入	導入推進	37棟増	20棟増	30棟増
試作展示圃設置による定点観測	異常天候によるリスク軽減	2圃場	2圃場	2圃場
新規増反推進	育苗ハウス活用による取り組み	実施	実施	実施
抑制タイプの増反	補助事業、助成事業の活用によるハウス	25a	45a	60a
パイプハウスの導入	導入推進	5棟	7棟	9棟
遮光資材、地温抑制資材の導入	異常天候によるリスク軽減	10件	12件	14件
農業振興公社との連携による優良苗の供給	育苗労力軽減	40件	45件	48件
夏ねぎと秋冬ねぎの比率4:6	適期収穫指導と労力分散	実施	実施	実施
加工ねぎの契約供給50t～	契約販売による所得確保	50t	60t	70t
種苗一括取りまとめによる優良苗の供給 トンネル・露地	袋詰め出荷の誘導 資材購入助成	90件 10件	92件 14件	95件 18件
優良種菌の導入、適期収穫 生産資材、種菌導入	全農PS、IVCの活用による出荷、菌床導入推進 事業申請手続き、購買利用推進	3名 実施	4名 実施	5名 実施

べぇ子

安達地区　品目別販売方針（数値計画）

品目名　きゅうり

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	露地	186	4,022	2,454,864	5,900	724,717
	ハウス（雨よけ）	74	584	445,237	7,600	126,187
	ハウス（抑制）	45	329	146,849	3,600	47,251
	露地（自根）	7	65	7,000	1,100	2,291
	合計	**312**	**5,000**	**3,053,950**		**900,446**

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	露地	192	4,200	2,814,000	6,700	984,900
	ハウス（雨よけ）	78	610	488,000	8,000	170,800
	ハウス（抑制）	50	367	161,260	4,400	56,441
	露地（自根）	5	57	6,740	1,183	2,359
	合計	**325**	**5,234**	**3,470,000**		**1,214,500**
令和5年度	露地	192	4,200	2,814,000	6,700	984,900
	ハウス（雨よけ）	80	620	496,000	8,000	173,600
	ハウス（抑制）	52	370	162,800	4,400	56,980
	露地（自根）	3	30	2,200	1,000	770
	合計	**327**	**5,220**	**3,475,000**		**1,216,250**
令和6年度	露地	192	4,190	2,807,300	6,700	982,555
	ハウス（雨よけ）	82	630	504,000	8,000	176,400
	ハウス（抑制）	54	380	167,200	4,400	58,520
	露地（自根）	2	15	1,500	1,000	525
	合計	**330**	**5,215**	**3,480,000**		**1,218,000**

品目名　ミニトマト

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	ミニトマト	72	622	189,000	3,037	117,429

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	ミニトマト	75	640	245,000	3,828	159,250
令和5年度	ミニトマト	74	635	245,000	3,858	159,250
令和6年度	ミニトマト	73	628	245,000	3,901	159,250

品目名　ねぎ

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	秋冬ねぎ	60	300	120,000	2,500	24,000

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	秋冬ねぎ	80	500	250,000	5,000	50,000
令和5年度	秋冬ねぎ	80	500	250,000	5,000	50,000
令和6年度	秋冬ねぎ	80	500	250,000	5,000	50,000

品目名　なす

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	なす	93	590	191,000	3,238	60,310

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	なす	95	600	218,000	3,633	71,722
令和5年度	なす	95	600	218,000	3,633	71,722
令和6年度	なす	95	600	218,000	3,633	71,722

品目名　菌茸類

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	菌床類	16	235	117,986	5,021	61,184

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	菌床類	16	235	120,000	5,106	60,000
令和5年度	菌床類	16	235	120,000	5,106	60,000
令和6年度	菌床類	16	235	120,000	5,106	60,000

安達地区経営モデル

農業所得規模：A1,000万円・B500万円・C300万円・D200万円

●経営モデルA　きゅうり

経営の概要
きゅうり（施設）：面積30a
きゅうり（露地）：面積40a
きゅうり（抑制）：面積20a
専従者：2名、雇用労働力有

粗収入
●きゅうり　1,800万円

粗費用　800万円

農業所得　1,000万円

●経営モデルB　きゅうり+水稲

経営の概要
きゅうり（施設）：面積30a
きゅうり（夏秋）：面積20a
水稲：面積106a
専従者：2名、雇用労働力有

粗収入
●きゅうり 1,520万円
●水稲　80万円

粗費用　950万円

農業所得　650万円

●経営モデルB　きゅうり+水稲

経営の概要
きゅうり（露地）：面積25a
きゅうり（抑制）：面積10a
水稲：面積400a
専従者：1名、雇用労働力有

粗収入
●きゅうり　700万円
●水稲　300万円

粗費用　500万円

農業所得　500万円

●経営モデルC　きゅうり+水稲

経営の概要
きゅうり（夏秋）：面積30a
水稲：面積231a
専従者：1名

粗収入
●きゅうり　540万円
●水稲　190万円

粗費用　420万円

農業所得　310万円

●経営モデルC　小菊+水稲

経営の概要
小菊：面積20a
水稲：面積300a
専従者：1名

粗収入
●小菊　400万円
●水稲　230万円

粗費用　330万円

農業所得　300万円

●経営モデルD　花卉+直売所

経営の概要
小菊：面積15a
直売所
専従者：1名

粗収入
●小菊　300万円
●直売所　200万円

粗費用　300万円

農業所得　200万円

※令和2年度基準　農業所得には専従者給与含む

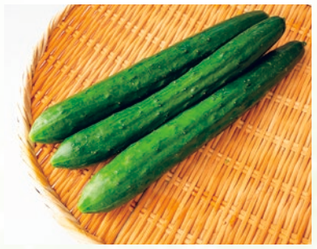
◆地区本部別重点取り組み事項

▶園　芸　戦　略

そうま地区

分類	品目	★最重点 ○重点	【取り組み方針および3年後の目指す姿】	重点事項
【果実】	日本ナシ	★	改植事業と合わせてジョイント栽培による省力化と製品率の向上による販売拡大	①出荷量拡大 ②省力化 ③生産者の確保
【そさい】	きゅうり	★	大型園芸団地を中心とした生産拡大及び専門部会の設立、共選による品質向上	①大型園芸団地の活用 ②生産面積の拡大 ③きゅうり部会設立
	ブロッコリー	★	水稲との複合経営経営による生産面積拡大及び機械収穫による省力化	①生産面積の拡大 ②機械化体系による省力化
	ねぎ	★	契約栽培による所得の安定及び出荷コスト削減	①所得の安定確保 ②省力化
	にら	★	JA助成事業の活用による施設栽培の生産面積拡大及び新規就農者の受け入れ	①生産面積の拡大 ②新規就農者受け入れ

実施事項	具体策	計画（年度）		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
老木の改植	あきづき、新高への計画的な更新	500本	500本	500本
新技術の導入	ジョイント栽培の普及拡大	3名	3名	3名
新規就農者受け入れ	部会組織での研修受け入れ	1名	1名	1名
共選による出荷規格の統一	製品率・品質の向上	10%向上	15%向上	20%向上
パイプハウスの増設	振興資金の活用による導入	2棟	2棟	2棟
部会員の募集及び専門指導員の配置	新規きゅうり生産者の推進	20名	25名	30名
水稲との複合経営	法人を中心とした推進	50a	50a	50a
機械収穫	補助事業を活用した収穫機の導入	2人	5人	10人
契約栽培の推進	加工業者との契約	50%	80%	100%
出荷資材のコスト削減	コンテナ出荷	50%	80%	100%
パイプハウスの増設	振興資金の活用による推進	2棟	2棟	2棟
行政との連携	部会での研修受け入れ	1名	1名	1名



米之介

そうま地区　品目別販売方針（数値計画）

品目名　ナシ

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	ナシ	56	4,745	593,027	1,249	227,617

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	ナシ	56	5,252	656,000	1,249	251,500
令和5年度	ナシ	56	5,252	687,000	1,308	263,100
令和6年度	ナシ	56	5,252	709,000	1,350	271,500

品目名　きゅうり

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	露地	6	78	22,000	2,820	4,415
	ハウス	19	140	92,100	6,579	23,201
	合計	**25**	**218**	**114,100**		**27,616**

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	露地	6	78	22,000	2,820	4,415
	ハウス	20	200	179,000	8,950	54,785
	合計	**26**	**278**	**201,000**		**59,200**
令和5年度	露地	6	78	22,000	2,820	4,415
	ハウス	20	320	250,000	10,000	74,835
	合計	**26**	**398**	**272,000**		**79,250**
令和6年度	露地	6	78	22,000	2,820	4,415
	ハウス	20	320	275,000	11,000	77,035
	合計	**26**	**398**	**297,000**		**81,450**

品目名　ブロッコリー

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	春ブロッコリー	13	565	46,398	820	18,000
	秋冬ブロッコリー	63	4,100	258,300	630	90,405
	合計	**76**	**4,665**	**304,698**		**108,500**

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	春ブロッコリー	13	565	46,398	820	18,000
	秋冬ブロッコリー	66	4,370	275,500	630	96,425
	合計	**79**	**4,935**	**321,898**		**115,000**
令和5年度	春ブロッコリー	13	565	46,398	820	18,000
	秋冬ブロッコリー	68	4,580	288,540	630	110,000
	合計	**81**	**5,145**	**334,938**		**128,000**
令和6年度	春ブロッコリー	13	565	46,398	820	18,000
	秋冬ブロッコリー	70	5,000	315,000	630	118,500
	合計	**83**	**5,565**	**361,398**		**136,500**

品目名　ねぎ

【現状】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	秋冬ねぎ	27	1,972	244,390	1,250	56,100

【目標】

	品種名	戸数	面積(a)	出荷数量(kg)	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	秋冬ねぎ	30	2,000	250,000	1,250	70,200
令和5年度	秋冬ねぎ	32	2,080	260,000	1,250	72,800
令和6年度	秋冬ねぎ	35	2,170	271,500	1,250	76,000

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

品目名　にら

【現状】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和3年度	春夏にら	13	196	46,240	2,359	19,609
	秋冬にら	20	370	57,480	1,554	41,300
	合計	**33**	**566**	**103,720**		**60,909**

【目標】

	品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（kg）	平均反収	販売額(千円)
令和4年度	春夏にら	14	216	54,000	2,500	23,052
	秋冬にら	21	390	72,150	1,850	51,948
	合計	**35**	**606**	**126,150**		**75,000**
令和5年度	春夏にら	15	236	59,000	2,500	24,124
	秋冬にら	22	410	75,850	1,850	58,876
	合計	**37**	**646**	**134,850**		**83,000**
令和6年度	春夏にら	16	256	61,500	2,500	26,000
	秋冬にら	23	430	86,000	1,850	61,800
	合計	**39**	**686**	**147,500**		**87,800**

そうま地区経営モデル　農業所得規模：A1,000万円・B500万円・C300万円・D200万円

●経営モデルA　水稲+大豆+玉ねぎ

経営の概要
水稲：面積2,700a
大豆：面積1,300a
玉ねぎ：面積200a
役員：5名、雇用労働力有（季節）

粗収入
●水稲　2,570万円
●大豆　1,080万円
●玉ねぎ　600万円

粗費用　3,020万円

農業所得　1,230万円

●経営モデルB　きゅうり

経営の概要
きゅうり（促成）：面積20a
きゅうり（抑制）：面積20a
専従者：1名

粗収入
●きゅうり　1,300万円

粗費用　680万円

農業所得　620万円

●経営モデルB　きゅうり+イチゴ+直売所

経営の概要
きゅうり：面積10a
イチゴ：面積13a
直売所
専従者：2名、雇用労働力有（季節）

粗収入
●きゅうり　510万円
●イチゴ　170万円
●直売所　390万円

粗費用　640万円

農業所得　430万円

●経営モデルC　水稲+ブロッコリー

経営の概要
水稲（飼料米）：面積1,500a
水稲：面積800a
ブロッコリー：面積150a
専従者：1名、雇用労働力：3名

粗収入
●水稲（飼料米）　1,320万円
●水稲　760万円
●ブロッコリー　450万円

粗費用　2,050万円

農業所得　480万円

●経営モデルC　ナシ+直売所

経営の概要
ナシ：面積120a
キウイフルーツ
直売所
専従者：2名

粗収入
●ナシ　830万円
●直売所　100万円

粗費用　560万円

農業所得　370万円

●経営モデルD　水稲+小菊

経営の概要
水稲：面積1,500a
小菊：面積20a
専従者：1名

粗収入
●水稲　1,420万円
●小菊　200万円

粗費用　1,300万円

農業所得　320万円

※令和2年度基準　農業所得には専従者給与含む

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

◆花卉（小菊）《重点事項・取り組み》

【取り組み方針】

小菊生産の普及による新たな農業経営の複合化を図り経営モデルの形成、栽培マニュアルの形成を行う事で、地域への低リスクでの小菊生産体系を形成し農地の総合的な利用増進により地域営農の高収益化を実現する。更には、R3 年度稼働の小菊原体共選施設の活用により複合栽培を可能とするための労力軽減を図るとともに、部会統一により組織的なスケールメリットを生かした有利販売を実施する。

【福　島】：支援事業および原体共選施設の有効活用による栽培面積の維持拡大を図り、主要病害虫の　防除の徹底による秀品率の向上を目指す。

【安　達】：生産面積拡大と新規生産者の拡大及び福島共選場の利活用による販路拡大

【そうま】：生産面積拡大と新規生産者の拡大及び福島共選場との連携による販路拡大

【現状】令和3年度

品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（千本）	平均反収（過去3か年）	販売額(千円)
小菊	139	4,100	11,845	1,100千円	506,790

【目標】令和6年度

品種名	戸数	面積（a）	出荷数量（千本）	平均反収（過去3か年）	販売額(千円)
小菊	200	4,600	13,800	1,200千円	552,000

【実施方策および取り組み内容】

○面積の維持拡大　　原体共選施設の利用促進・省力機器の導入促進
○新規栽培普及　　新規栽培募集説明会及び圃場見学会の開催
○生産性向上　　優良品種の試験栽培実施及び導入・防除体系及び栽培マニュアルの作成
○規格の統一　　一元共選販売の実施

■福島地区　花卉共選場

■小菊

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

◆農産物直売所・直販《重点事項・取り組み》

- 新規農産物直売会員の推進
- 農家委託品売上向上
- 野菜主要品目の周年出荷対策
- 新たな販路拡大への取り組み

【取り組み方針】

○地域に必要とされる農産物直売所を継続発展させるため、高齢者や女性などを含む多様な農業者の育成を進めるために農産物直売所会員の推進と、所得向上に繋がる支援事業、新たな販売先の確保、直売所出荷データ分析による作付支援、更に野菜主要品目の周年出荷の栽培指導を確立する。直販事業は新たなネット販売の検討及び、米を含めた更なる贈答企画の取り組みにより販路拡大を進める。

【現状】令和3年度

直売所会員	新規会員	農家委託品売上（税別）	野菜主要品目委託比率
2,777名	132名	2,044百万円	85.5%

【目標】令和6年度

直売所会員	新規会員	農家委託品売上（税別）	野菜主要品目委託比率
3,200名	500名	2,186百万円	90.0%

【実施方策および取り組み内容】

○各地区営農センターと連携し、多様な農業者へ農産物直売所の魅力を伝えると共に、栽培指導及び出荷支援を行い、新規農産物直売会員の確保を行います。
○直売所会員を対象とした種苗購入助成及び、パイプハウス導入等の助成など、農家所得向上に繋がる支援事業を展開して参ります。
○新たな販売先として、インショップ等の開拓及び、管内直売所間の販売体制を強化し、広域性を生かした有利販売を展開します。また、広域集配機能強化を検討致します。
○農産物直売所出荷データを分析し、農産物直売会員へ売れ筋商品及び、不足商品の提案を行い、計画的に作付・出荷するように指導するとともに、適正売価設定のため、相場調査を実施致します。
○野菜主要品目（キャベツ・ねぎ・ほうれんそう・レタス・玉ねぎ・大根・にんじん・馬鈴薯）の周年出荷の実現のため、栽培指針の作成を進めてまいります。
○管内の魅力を発信できる新たなネット販売の立ち上げ及び、各行政、郵便局と連携し、米や果物の更なる贈答商品の開発を進め、販路拡大に努めてまいります。

■ここら矢野目店

■ここら吾妻店

■Ｙショップここら西店

■ここら黒岩店

■ここら清水店

■ここら川俣店

■みらい百彩館んめ～べ

■こらんしょ市

■旬のひろば

■ふれあい旬のひろば

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

◆米穀類《重点事項・取り組み》

- 米需給調整への取り組み（地域再生協議会と連携した取り組み）
  - ・備蓄、飼料用米を主体として併せて、転作作物（大豆、麦、園芸作物）の生産拡大に取り組む
  - ・新市場開拓用米の取り組み（全農と連携した販路拡大）
- 品種別集荷数量確保（実需に基づく品種別数量確保）
  - ・安定した販売先確保（実需に基づく品種別数量確保）
  - ・地産地消の拡大
- 生産コストの削減の検討
- 大豆・麦の販売先確保（高品質の生産体制確保）
- 育苗センター、カントリーエレベーター、ライスセンター施設の継続運営（施設・設備の更新計画を含む利用料の設定）

【取り組み方針】

需給調整のため示される主食用米作付目安を飼料用米、備蓄米により引続き取り組み達成し主食用米取引価格の向上を図るとともに、大規模生産者・組織を中心に転作作物として小麦・大豆生産面積の拡大と単収向上により農家所得の向上に取り組む。

【現状】令和3年度（令和3年産）

品目	戸数	面積（ha）	出荷数（ﾄﾝ）	平均反収（過去3か年）
主食用米	6,265	6,507	22,050	※517
飼料用米	1,156	3,444	18,421	535
備蓄用米	314	450	2,374	522
小麦	29	220	835	380
大豆(R2年産)	69	424	525	125

※地域の合理的な反収

【目標】令和6年度（令和6年産）

品目	戸数	面積（ha）	出荷数（ﾄﾝ）	平均反収（過去3か年）
主食用米	6,100	6,100	21,000	520
飼料用米	1,200	4,000	22,790	570
備蓄用米	400	670	3,500	522
小麦	30	260	1,014	390
大豆	70	500	750	150

【実施方策および取り組み内容】

〇主食用米・飼料用米・備蓄米

米の需給調整を飼料用米・備蓄米を中心に取り組み水田環境の維持を図るとともに農業所得確保を行う。

〇小麦・大豆

大規模農家・組織を中心に転作作物として小麦・大豆の作付け拡大を図るとともに、団地化・排水対策等の実施による単収の向上を行なう。

〇今後の需給調整は、国の方針により変更される可能性もあり、飼料用米からの主食用米への作付け変更や園芸品目作付けへの転作拡大等、方針に沿って変更し取り組む。

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

◆米穀類《重点事項・取り組み》

主食用米

- 主力品種の数量確保
  - • コシヒカリ：12,000ﾄﾝ（福島・伊達・安達地区） • 天のつぶ：7,000ﾄﾝ（そうま・安達地区）
- 中山間地区での「里山のつぶ」作付拡大

【現状】令和3年度

（単位:ﾄﾝ）

地区名	買入数量	コシヒカリ	天のつぶ	里山のつぶ	ひとめぼれ
福島	2,181	1,759	236	4	143
伊達	2,579	2,215	347	3	7
安達	8,474	6,995	875	14	536
そうま	8,817	2,012	5,643	90	815
計	**22,050**	**12,981**	**7,101**	**111**	**1,501**
割　合		59%	32%	1%	7%

【目標】令和6年度

（単位:ﾄﾝ）

地区名	買入数量	コシヒカリ	天のつぶ	里山のつぶ	ひとめぼれ
福島	1,700	1,450	70	20	100
伊達	2,100	1,950	30	0	0
安達	8,000	6,600	700	15	400
そうま	9,200	2,000	6,200	120	750
計	**21,000**	**12,000**	**7,000**	**155**	**1,250**
割　合		57%	34%	1%	6%

飼料用米

- 天のつぶ・里山のつぶ・専用品種の作付けによる収量アップ

【現状】令和3年度

地区名	面積ha	数量ﾄﾝ	単収kg/10a
福島	279	1,459	**530**
伊達	295	1,619	**547**
安達	172	1,019	**592**
そうま	2,698	14,324	**530**
計	**3,444**	**18,421**	**535**

【目標】令和6年度

地区名	面積ha	数量ﾄﾝ	単収kg/10a
福島	385	2,080	**540**
伊達	385	2,195	**570**
安達	380	2,270	**597**
そうま	2,850	16,245	**570**
計	**4,000**	**22,790**	**570**

※目標単収：市町村の単収+60kg±α

備蓄用米

- 多収穫品種「天のつぶ（平坦地）里山のつぶ（中山間地）」の作付拡大

【現状】令和3年度

買入数量	天のつぶ	里山のつぶ	その他
2,368	1,902	4	461
割合	**80%**	**0.2%**	**20%**

【目標】令和6年度

買入数量	天のつぶ	里山のつぶ	その他
3,500	3,220	175	105
割合	**92%**	**5%**	**3%**

◆畜産《重点事項・取り組み》

●肉牛
- 高品質肉牛の生産による上物率向上と銘柄「福島牛」づくり
- 安全安心情報の発信
- 良質肉質の生産と事故率の低減

【取り組み方針】

●去 勢 牛　　枝肉重量600キロ　格付A5　BMS　8以上　キロ単価2,500円以上
●雌　　牛　　枝肉重量500キロ　格付A5　BMS　8以上　キロ単価2,500円以上
●生産拡大　　短期肥育技術の確立、コスト削減

○生涯現役対策	機械化作業による労力の軽減
○省力化対策	自動給餌機の導入
○高温・温暖化対策	環境整備、換気循環、排泄物の堆肥化
○先端技術対策	アイミートの導入

●助成事業等　　全農生産基盤強化事業、JA農業振興支援事業

【現状】 令和3年度

品目	戸数	出荷数量(頭)	単価(千円/頭)	販売額(千円)
肉牛	22	714	1,248千円	891,319

【目標】 令和6年度

品目	戸数	出荷数量(頭)	単価(千円/頭)	販売額(千円)
肉牛	22	642	1,206千円	774,400

【実施方策および取り組み内容】

○飼養管理基本の徹底
○ステージ別（導入時・前期・中期・後期）に合わせた管理

●酪農
- 生乳生産の向上と乳質改善
- 適正な個体管理によるコスト削減

●生産拡大　　自給粗飼料の確保によるコスト削減
○生涯現役対策　　酪農ヘルパーの利用
○省力化対策　　機械化作業体系の整備
○高温・温暖化対策　　環境整備、排泄物の草地還元
○先端技術対策　　搾乳パーラーの導入
●助成事業等　　全農生産基盤強化事業、JA農業振興支援事業

【現状】 令和3年度

品目	戸数	出荷数量（t）	単価	販売額(千円)
生乳	51	9,108	113千円	1,029,790

【目標】 令和6年度

品目	戸数	出荷数量（t）	単価	販売額(千円)
生乳	50	9,115	113千円	1,029,845

【実施方策および取り組み内容】

●乳 牛:
○乳牛を健康に飼う
○乳用後継牛を確実に確保する
○ET和牛やF1子牛を活用する

◆畜産《重点事項・取り組み》

●和牛繁殖
- 優良和牛子牛生産と繁殖基盤の強化
- 優良牛生産組織の形成

【取り組み方針】

●生産拡大	WCS、SGS、TMRなどの取り組みによるコスト削減
○生涯現役対策	粗飼料の共同確保と機械導入による効率化
○省力化対策	夏山冬里の放牧型による経営
○高温・温暖化対策	循環型農業の推進
○先端技術対策	ゲノミック評価の取り組み、受精卵移植の推進
○助成事業等	JRA公募事業、全農生産基盤強化事業、JA農業振興支援事業

【現状】 令和3年度

品目	戸数	出荷数量（頭）	単価（円/頭）	販売額(千円)
和牛子牛	337	2,476	679千円	1,680,638

【目標】 令和6年度

品目	戸数	出荷数量（頭）	単価（円/頭）	販売額(千円)
和牛子牛	337	2,575	677千円	1,743,500

【ゲノミック評価】

令和3年度：176頭（年間）▶ 令和6年度：200頭（年間）

【実施方策および取り組み内容】

●繁殖雌牛：1年1産で低コスト生産
①良質粗飼料の確保
②分娩前後の増飼励行
③分娩後80日以内の受胎に努力
④子牛早期離乳の実施
⑤母牛の栄養度管理（栄養度指数5~6）
⑥日常の観察（発情・疾病等）

●子牛：発育の良い丈夫な飼易い子牛の生産（9ケ月齢出荷　雌272kg~　雄310kg）
①初乳の完全授乳
②凍結初乳の活用
③生時体重測定
④下痢対策
⑤去勢・削蹄の適時実施
⑥新鮮な飲用水の給与
⑦粗飼料を3.5kg以上食込める胃袋づくり
⑧日常の観察

●交配：JAグループ和牛改良方針に基づいた交配

◆みどりの食料システム戦略について

「みどりの食料システム戦略とは？」

持続可能な食料システムのことで、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現に取り組む政策方針です。

農業にかかる主な４つの項目

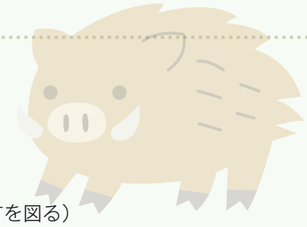
・農林水産業のCO_2ゼロエミッション化の実現
・低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
・輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
・耕地面積に占める有機農業の取り組み面積の割合を25%（100万ヘクタール）に拡大（国際的な有機農業の基準で）

みどりの食料システム戦略の実現に向けた、新たな技術・実証・普及に取り組むため消費者の理解向上等をふまえ、持続可能な食料生産と環境負荷軽減や生産基盤強化への対応について、関係機関と連携して取り組んでまいります。

①省エネ型施設園芸施設の普及拡大（環境制御システム等の導入・推進）
②環境負荷軽減に資する農薬、資材等への対応・推進
- 環境への流出状況の把握
- プラスチックを活用した被膜殻の流出防止対策への対応（水田から流出させない対策「流出防止に関する生産者への啓蒙活動、農地からの流出対策）
  【対策1：浅水代かき・対策2：捕集ネットの使用】
- 代替となる施肥肥料のご提案（プラスチック被膜に頼らない農業の実現）
- ネオニコチノイド系殺虫剤への対応（農薬散布情報の共有による対策、登録に沿った適正使用への徹底指導を図る）

③耕畜連携・循環型農業による環境負荷軽減（堆肥を活用した土づくりの推進）
④環境保全に配慮した新技術への取り組み（スマート施肥など新技術の普及拡大）
⑤国の指針25%目標を達成するべく有機農業・栽培に考慮した技術革新と合わせて、農薬や肥料削減のためのシナリオ作りの取り組み検討

◆有害鳥獣対策について



①関係機関連携による駆除対策のモデル集落での検討取り組み
②猟友会への支援
③被害対策支援
- 農産物の収穫残さを減少させるための啓蒙活動
- 営農指導巡回の中で電気牧柵設置箇所への雑草対策指導
- 駆除対策の取り組み（狩猟制度・免許にかかる支援）

④地域別に定期的な対策・検討会の開催（関係機関と連携・問題共有を図る）

◆農業労働力確保に向けた取り組みについて

農業現場における労働力不足を解消するため、有料職業紹介所による求職者の紹介と福島県と JA 中央会で運営している求人サイト「みつかる農しごと」の取り組みを有効に活用し、就労希望者の要望に対応してまいります。

≪就労希望者の募集≫
- メディア活用による労働力（農作業補助員）募集
- サポータ募集のための周知チラシを大型量販店及び直売所店舗へ掲示
- JA 広報誌による募集案内

≪関係機関連携による労働力支援≫
- 農福連携の取り組みによる労働力支援
- パートナー企業（㈱ JTB）と連携した労働力支援
- 農業大学等と連携による労働力支援

◆農地保全管理について

耕作放棄地や遊休農地の増加により農産物の病害虫・鳥獣被害の発生等、農地利用（集積）の阻害にも結び付くおそれがあることから、その発生防止を図るとともに農地再生を目的に市町村（関係機関）と連携を図り、先進事例を参考にしながら実践できる地域から進めてまいります。
- **営農指導巡回の中で電気牧柵設置箇所への雑草対策指導**
- **駆除対策の取り組み（狩猟制度・免許にかかる支援）**

JA管内の優良事例

福島地区

●東湯野ふるさと保全組合　KA-KA-SHI組
（R3福島市農業賞受賞）
設立：平成31年3月　組合員数：10名
取り組み内容
耕作放棄地や遊休農地解消のため、地域内の情報を収集し、新規就農者等に紹介。地域全体で、新規就農者のサポートをしている。

●水保地区遊休農地対策協議会
（H30福島市農業賞受賞）
設立：平成26年10月　協議会員数：11名
取り組み内容
農地の利用集積や遊休農地の解消のため、地域一体となり農地集積に取り組み、農地中間管理事業を活用して52ha余りの農地を集積し、貸し付けなどの活用につなげた。

伊達地区

●多面的機能支払交付金事業の中で農地保全に取り組まれている組織
細谷新田水環境保全協議会
（2020県優良活動表彰受賞）
設立：平成19年10月　受益者：約400名
対象農地面積：154.07ha
取り組み内容
地元住民の自主施工による水田のU字溝布設作業、遊休農地の除草活動による耕作放棄地の解消、遊休農地への景観作物の植付などの地域の環境づくり改善に向けた取り組み

柱1 Agricultual Promotion Strategy Plan 1

JA管内の優良事例

安達地区

●安達郡大玉村:あだたらドリームアグリ株式会社
設立：平成27年10月　構成戸数：10戸　役員3名
社員3名
農地集積面積　50.95ha（令和3年度）
取り組み内容
　地域水田の約90%を集積し、畑作物の導入、直売所を活用した米などの加工販売を行っている。

●二本松市：箕輪西部営農改善組合
設立：平成20年12月　組合員数：34名
面積：32.5ha
取り組み内容
　集落内で田んぼの作付を出来なくなった方からの相談を受け、集落内で受け手を探す取り組み、受託相談活動

そうま地区

復興にかかる営農再開と地域農業再生の取り組み
取り組み内容
　東日本大震災に伴い発生した福島第一原子力発電所事故の影響により、避難及び農産物生産の中止を余儀なくされた旧避難指示区域内の農地において、荒廃抑制・保全管理作業に取り組み、早期の営農再開と地域農業の再生を図る。
①除草等の農地の保全管理
②営農再開に不可欠な農道及び水路等の除草、清掃及び補修作業

●小高区ふるさと農地復興組合
設立：平成24年10月　組合員数：280名
面積：772ha

●ふるさと小高区地域農業復興組合
設立：平成24年6月　組合員数：151名
面積：295ha

その他先進事例紹介

・エミュー（オーストラリアの国鳥でアフリカ原産）を耕作放棄地（遊休農地）で飼育することで雑草を食べて糞が堆肥化され農地を再生する取り組み。（荒れた田畑が減るだけでなく農地再生が可能）
※既に他県で取り組みされております。
※要件として、飼育周辺をフェンスで囲み、逃げ出さないよう対策が必要になります。

柱2 Agricultual Promotion Strategy Plan 2

異常気象・自然災害に対する対策・支援

　JAふくしま未来は、農業における異常気象･および自然災害に対する営農指導による防除（高温対策、低温対策、強風対策等）の周知徹底により、農業生産の確保に努めてまいります。
　また、災害に遭われた方々への支援策として農業資金および、助成措置等を今後も継続して実施してまいります。
　今後さらなる自然災害に備えるため、様々なリスクから農業経営を守るため、農業保険（収入保険･果樹共済･園芸施設共済）等の加入促進に取り組みを進め、農業経営の安定化を支援してまいります。

●農業保険（収入保険）、ナラシ対策への加入推進

　共済組合、地域の再生協議会と連携し、自然災害をはじめとした様々な収入減少から農業者を守るため農業保険、ナラシ対策への加入を進めてまいります。

○異常気象・自然災害に対する防除指導

◆異常気象･自然災害に対する主な営農指導

▶高温対策

果　樹：モモ

1.潅水の実施
・1回目：4月上中旬開花前の十分な土壌水分確保のために実施
・2回目：5月下旬から6月上旬硬核期前までの実施
・3回目：7月中旬あかつき中心に収穫10~14日
※早生は梅雨時期考慮、晩生は長期干ばつ時同上時期実施
2.潅水の量・方法
・潅水できる場所：1回30㎜以上（潅水動噴による移動可能な場所）
・潅水が困難な樹園地：（肥料袋で1樹木に1袋に水を入れ根元の点滴潅水）
※水源の無い場所では､SS・タンク等を活用する。
3.潅水の時間帯
・午後3時以降、夕方
4.肥料・葉面散布
・高温による、夜間の炭水化物の浪費を防ぐこと、代謝の促進を図る。
・収穫直前カルシウムは着色不良になるので使用しない。
5.優良堆肥の連用施用による土壌水分の保水性向上、調整機能の重要性
・毎年1トン　　隔年1~2トン

野　菜

1.露地、施設に関係なく地温上昇の抑制、土壌の乾燥防止、通気の確保がポイント。
・遮光ネット（90%）や昇温抑制マルチの活用
・流滴剤塗布型長期展張フィルムの使用
・敷きわらの代用（イノシシ対策）

水　稲

1.土づくり対策
・堆肥・土壌改良資材の施用及び作土深15㎝以上とし根張を確保する。
2.単一品種栽培から複数品種栽培（出穂期を分散させ被害を軽減する）
3.施肥の改善
・高温時については、窒素の分解が早まるため登熟期間の稲体窒素を確保するため、葉色・草丈等を観察し穂肥を実施する。

花　き:小菊

1.定期的なかん水対応
・定植後の活着確保（定植1週間は先端の萎れ状況により対応）
・生育初期のかん水（特に葉の萎れが見られる場合は頭上かん水）
・生育中後期のかん水（特に葉の萎れが著しい場合は株元かん水）
※かん水の実施は、日中の高温時期は絶対避ける。

畜　産

1.早朝、夕方の涼しい時間帯での飼料給与及び人工授精の励行
2.新鮮な水の給与と飼槽回りの清掃による食欲増進対策
3.体力消耗対策として高タンパク質とビタミン剤の投与

▶低温対策

果　樹

1.防霜資材の準備と対策を徹底するとともに人工授粉により結実を確保する。
2.下草は低く刈り込み（地温の上昇を図る）
3.空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し、土壌水分を確保（乾燥条件葉気温の低下が著しいため）してください。
4.防除間隔を空きすぎないように病害虫防除を徹底する。

野　菜

1.明渠（排水溝）の掃除、ほ場周辺の溝切り等を行い、ほ場の排水性を確保する。
2.マルチ栽培による低温対策、高畝栽培による湿害対策を図る。
3.天候の合間を見て、適宜、追肥、葉面散布を行い、生育の回復を図る。
4.作物登録のある殺菌剤による防除を適宜行い、病原菌の2次感染や腐敗防止に努める。
5.秋口以降の作型では、早めにマルチ、トンネル、べたがけ資材を利用して、気温、地温を高める。
6.草丈のある野菜は支柱をたて敷き藁や被覆フィルムで覆う。
7.作物の生育適温を下回る気温で経過する場合、肩換気の調節により、保温に努め、夕方は早めに閉めて夜温を確保する。

水　稲

1. 田植え時期 ～ 田植え直後の低温時はやや深水管理で活着を促進する。
2. 幼穂形成期 ～6 月下旬の中干し後に幼穂形成期（7 月上旬）を迎えるので水田への潅水を遅れないようにし、気温が低い場合は深水管理で稲の幼穂を守る。
3.出穂時期～8月に低温が予想される場合は、登熟促進が期待されるフジワン粒剤の使用(7月下旬)を検討する。
4.刈取り時期～出穂から1ケ月は水をきらさないで登熟をすすめ、早刈りにならないよう葉色やモミの枯れ具合で刈り取り時期を判断する。

花　き:小菊

育苗期間：①育苗施設については保温資材を活用し小トンネル被覆を行い、夜温を確保することにより苗の長さを確保する。
定植時期：①霜害の心配が無くなってから（おおむね 4 月 20 日以降）定植すること。
②定植後霜害が懸念される場合には糖類を含む葉面散布資材を使用し霜害の軽減を図る。
生育期間：①低温（24 度以下）と降雨が重なるとサビ病の発生が懸念されることから定期防除に加え殺菌剤の特別散布を実施し予防防除に務める。
②サビ病の発生が認められる場合には速やかに治療剤に切り替え、短間隔防除を実施する。
③降雨時の土壌の跳ね返りにより斑点細菌病などの病害が発生することがあるので、病害が認められる場合には対象農薬を速やかに散布する。

畜　産

1.敷料を多めに利用する。
2.エネルギー給与（増飼い）
3.暖房器具の利用（ジャケット・ネックウォマー等）
4.飲料水を温めて給与する。

▶強風対策（台風、水害等）

果　樹:事前対策

1.収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫する。
2.立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束する。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等をはずし風になびくようにする。
3.りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強する。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないか確認する。
4.平棚栽培（ナシ、ブドウ等）では、棚面の上下動を防ぐため、支柱･アンカーの補強、ラセン杭などによる棚面の固定や棚線の締め直し等を行う。また、棚の側面に防風ネットを設置し風の入り込みを防ぐ。
5.モモせん孔細菌病は、台風の風雨により落葉した場合には、落葉痕からの感染が多くなるので、台風の接近前に必ず防除を実施する。
6.なし黒星病の秋期防除は、りん片生組織の露出が増加する10月から重要な防除時期となるので、芽の露出状況を確認し、降雨前の防除を徹底する。

果　樹:事後対策

1.滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努める。
2.落果した果実は速やかに収集し、適正に処理する。
3.葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1~2日後に適切に薬剤散布を実施する。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施する。
4.落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行う。
5.倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定する。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促す。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させる。

▶強風対策（台風、水害等）

野菜・花き:事前対策　《共 通》

1. ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておく。水害の恐れがある地帯では強制排水のポンプも準備しておく。
2. ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修する。
3. パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し､ビニールの破損があれば補修する。また、栽培を終えて、被覆資材等で外してもかまわないものについては早めに取り外す。
4. パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強する。
5. 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないよう完全に閉めておく。
6. 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定する。
7. 台風接近前に収穫可能なものは、不良果や不良莢も含めてできるだけ収穫する。
8. は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施する。

野　菜

1. 露地きゅうりは、支柱やネットにしっかり誘引しておく。なすやピーマン、アスパラガスは、支柱やフラワーネットを点検し、倒伏を防止する。

花　き

1. 露地栽培では、フラワーネットや市中を点検し、倒伏や曲りを防止する。

花　き：事後対策　《共 通》

1. 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努める。
2. ねぎやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行う。
3. 台風通過後は、吹き返しに注意しながら、速やかに施設等の換気を図る。

野　菜

1.排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くする。
2.マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的に取り除いて乾燥させる。
3.果菜類で、損傷を受けた果実は早急に摘果する。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引する。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除する。
4.冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行う。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行う。
5.収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行う。
6.冠水時間が長く回復の見通しがない場合は、他作物への転換やまき直しを行う。

水稲・大豆・そば:事前対策

1.収穫可能なほ場は、台風通過前に収穫する。
2.増水に備え用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておく。
3.ほ場の排水対策を徹底する。

水稲：事後対策

1.台風通過後は、コンバインの入れるほ場から速やかに収穫する。
2.倒伏したほ場では刈り分けを行い、丁寧な収穫作業を行うことで泥の混入がないように注意する。
3.収穫後の乾燥・調製作業は丁寧に行い、品質向上に努める。

花　き

1.キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行う。
2.ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の薬剤散布を行う。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図る。

▶強風対策（台風、水害等）

畜産・飼料作物：事前対策

1.強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず応急措置を行う。
2.入り口等が開放されている飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにする。
3.堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されるので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止する。
4.あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行う。
5.水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにする。

畜産・飼料作物：事後対策

1.畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努める。
2.台風の通過後は高温となるおそれがありますので、家畜の暑熱対策を徹底する。また、家畜の姿勢、採食量や反芻などの行動をよく観察し、異常や疾病の早期発見・早期治療に努める。
3.滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水する。
4.豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復する。
5.収穫期を迎えた飼料用トウモロコシやWCS用稲が倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行う。調製にあたっては、水分調整の実施や、土砂等が混入しないよう収穫作業を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努める。

農業機械：事前対策

1.川沿い、浸水の可能性がある場所に置いてある農業機械については高台へ移動し、浸水被害に遭わないように努める。

異常気象・自然災害に対する肥料等購入費の助成支援

令和3年度実施内容の紹介

●凍霜害次期作支援事業（肥料）
・福島県凍霜害緊急対策事業の補助事業対象によりJAから購入した肥料（基肥・追肥・礼肥）（令和3年7月～12月までに購入）購入費の20%助成支援
●凍霜害次期作支援事業（防霜ファン）
・福島県凍霜害緊急対策事業の補助事業対象によりJAから購入した防霜ファン設備（令和3年10月～令和4年3月までに購入）に対し導入費の10%助成支援
●米価下落に伴う次期作支援事業
・JAから購入した基肥（令和3年11月～令和4年1月までに受注）が対象で購入費の15%助成支援
・JAから購入した水稲種子（令和3年11月～令和4年1月までに受注）が対象で1kgあたり50円助成支援
※助成内容は、令和3年実施内容

柱2 Agricultual Promotion Strategy Plan 2

◆異常気象や自然災害に対する農業資金の取り組み

1 主要な農業資金の内容

JAでは農業者のニーズや要望に沿って各種商品をご用意しております。

	低利な資金をお求めの方に!	様々な用途にオールマイティに対応!	比較的簡便な手続きをお求めの方に!	補助金入金までの資金繰りに対応!	日本政策金融公庫の資金もJAを窓口にご利用いただけます!	
商品名	農業近代化資金	アグリマイティー資金	ジャックス保証農機具ローン	JA交付金等つなぎ資金	農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）	青年等就農資金
対象者	認定農業者 認定新規就農者等	組合員 農業者等 （個人・法人等）	組合員 農業者等 （個人・法人等）	組合員 農業者等 （個人・法人等）	認定農業者 （個人・法人）	認定新規就農者
資金使途	運転・設備資金 （農地不可）	運転・設備資金 （農地・借換可）	設備資金 （農地不可・借換可）	各種交付金受領までのつなぎ資金	設備・運転資金 （農地可）	設備・運転資金 （農地不可）
貸付金額	個人1,800万円以内 法人2億円以内	事業費の100%の範囲内	1,000万円以内	JA口座に入金される金額の範囲内	個人　3億円 （特認6億円） 法人　10億円 （特認20億円）	3,700万円 （特認1億円）
貸付期間（据置期間）	15年以内 （7年以内）	原則10年以内 （3年以内）	10年以内	1年以内	25年以内 （10年以内）	17年以内 （5年以内）
金利 （2021年12月29日現在）	当初5年間　0% 5年目以降最大0.3%	JA所定の金利			0.17% （貸付期間10年の場合）	無利子
	JAバンク福島で利子補給実施中（詳細は次項）					

※資金使途により貸付金額や貸付期間に制限がある場合がございます。
※JAでは上記資金のほかにも多様な農業資金を準備しております。
※詳細については、お近くのJAまでお問合せください。

2 JAバンク利子補給について

JAバンク福島では、農業者の借入負担軽減のため、地域農業の振興に資するJA資金を対象に、利子補給を実施しており、これにより農業近代化資金の当初5年間無利子を実現しています。

（1）JAバンク利子補給の概要

対象資金

- 農業近代化資金
- アグリマイティー資金
- JA農機ハウスローン
- ㈱ジャックス保証農機具ローン
- JA新規就農応援資金
- JA交付金等つなぎ資金　　等

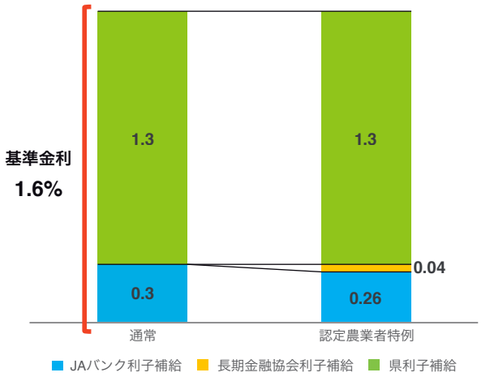
利子補給率

最大0.8%（2022年1月～）

利子補給期間（最大）

- 農業近代化資金：当初5年間
- その他の資金：当初3年間

（2）JAバンク利子補給の実施例（農業近代化資金の場合）



実質負担金利0%を実現（当初5年間）

令和3年度実施した異常気象等に対する利子助成の取り組み
○農家経営安定資金（凍霜害、米価下落）
○令和3年4月凍霜害災害資金
○新型コロナウイルス感染症対策緊急資金
※上記災害等の農業資金には条件がございますので、詳しくは各支店へお問い合わせお願いします。

震災からの完全復興に向けた産地づくり

避難指示解除区域（南相馬市小高区・飯舘村・川俣町山木屋地区）の営農再開を着実に実現するため、水稲作付面積拡大とあわせ、高付加価値の展開から販売先の見える取り組みにより、安心して作付けができる体制の整備に取り組みます。大型園芸団地を拠点とする園芸作物の作付拡大を進めてまいります。

水　稲

担い手・法人組織に面積の集約を市町村と連携して進め、CE・RC 施設の利用拡大を図り安定した販売先の見える化に取り組みます。さらに情報発信により作付け拡大を進めてまいります。多収品種の作付推進にも取り組み、安定した収量の確保に努めてまいります。

重点取り組み事項

- 水田作付け再開の取り組み
- 市町村との連携による担い手・法人組織への農地集積
- CE・RC施設利用における販売（パックご飯等）、先の見える展開
- 多収品種への作付け推進
- 米の需給調整、飼料用米への作付け転換
- 水稲育苗施設の活用による労働力低減の提案

【作付け再開面積】

	震災前（平成22年）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
小高区	1,252ha	240ha	270ha	318ha	371ha
飯舘村	848ha	176ha	210ha	211ha	213ha
山木屋地区	121ha	58ha	69ha	81ha	90ha
合　計	**2,221ha**	**474ha**	**549ha**	**610ha**	**674ha**
水稲育苗施設			12,000箱	19,000箱	27,000箱

原町カントリーエレベーター

柱3 Agricultual Promotion Strategy Plan 3

園　芸

地域の特色を生かした作付け拡大および、周年出荷体制の構築を進めてまいります。

重点取り組み事項

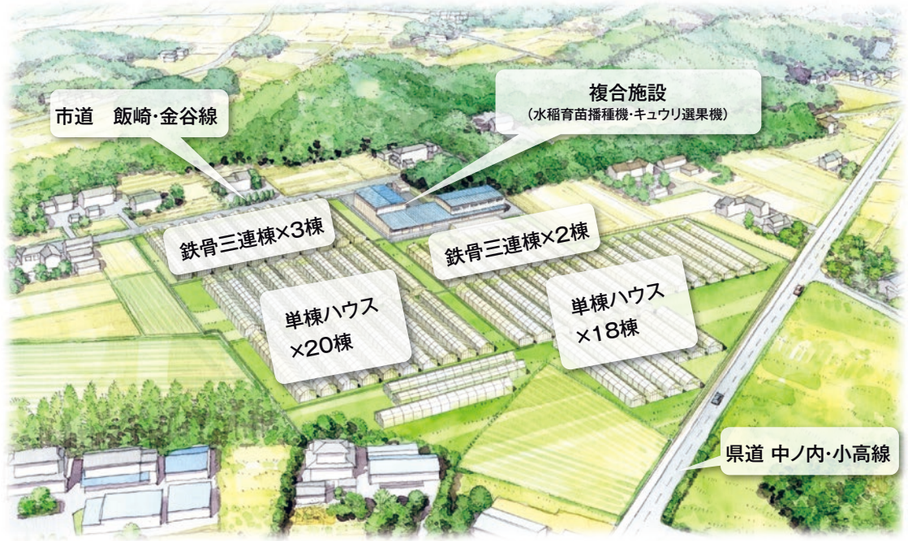
- 小高園芸団地効果によるきゅうり・スナップエンドウ作付け拡大周年出荷体制の構築
- 重点品目にきゅうり・スナップエンドウを含めた作付け増による販売高の拡大

【販売計画】

（単位：千円）

品　目	令和４年度	令和５年度	令和６年度
きゅうり	50,600	82,800	85,000
スナップエンドウ	0	4,724	4,809
合　計	**55,295**	**87,524**	**89,809**

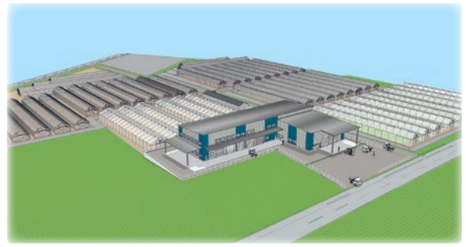
■小高園芸団地完成イメージ図1



小高園芸団地施設の概要

施設住所：南相馬市小高区飯崎字南原94－2

- 複合施設
  （水稲育苗全自動播種機　キュウリ選果機）
- 鉄骨ハウス　3連棟× 5棟　約58a
- パイプハウス　単 棟×38棟　約120a
- 施設の設備
  養液土耕栽培システム、環境制御設備、
  その他作業機械数台



■小高園芸団地完成イメージ図2

◆地域農業振興のための購買事業の取り組み

肥料農薬の地域最安値への挑戦を継続し、その成果を最大限に組合員の皆様に還元できる予約購買の拡大を図ります。また予約購買の利点を生かした高品質商品の安価・安定供給に努めます。

経済事業の収支均衡を実現すべく、拠点単位の収支改善を図るとともに長期安定運営を可能とする店舗運営体制の構築を目指します。

また、長期的展望に立ち地域の状況に配慮した経済事業運営方針の構築を目指します。

生産トータルコストDOWN
～みらいろテン！継続強化～

＜肥料・農薬＞

▼競争に負けない価格を実現するため各地域競合他店の価格調査で価格情勢を把握し、値入ミックスの実施や農薬入札買取りによる仕入機能の強化で、重点品目や主要品目の地域最安値での価格を目指します。

▼各種予約注文取りまとめの強化及び未利用農家への普及拡大を実施し、予約購買の充実による安定供給を図ります。

▼水稲農家の生産コスト低減を目指し「肥料満車直行（4・10t車）」や「農薬の担い手直送規格（大型水稲除草剤）」の実施により物流コスト削減することで価格の引き下げを図り、農家所得アップ向上に努めます。

▼大口需要農家対象として大型規格の茎葉処理除草剤のキャンペーンや定期的な統一売出セールを開催し、農家生産コストの更なる低減に貢献します。

JAふくしま未来オリジナル肥料の開発
『みらいろ物語』シリーズ　果樹7品目、野菜2品目、水稲5品目

＜その他の生産資材（出荷資材）＞

▼主要品目の入札買取りの実施や仕入れ先の見直しによりコスト低減を実現します。

▼営農部門と連携し出荷規格の集約や出荷資材の簡素化、全地区統一規格の出荷資材への切替え等を進め、さらなるコスト削減を目指します。

資材店舗

＜皆様に選ばれる店舗を目指します。＞

▼安全・安心・高品質な商品の安価安定供給に努めます。

▼店頭掲示等の商品情報充実と親切な相談機能の強化を目指します。

▼地域性を考慮したタイムリーな商材の提案を心がけます。

▼店舗の美化に努め、判り易い案内板と商品陳列を心がけます。

◆販売品販売高計画　令和４･５･６年度JA販売品販売高計画

（単位：キロ・千円）

分類	品目	令和4年度 販売数量	令和4年度 販売金額	令和5年度 販売数量	令和5年度 販売金額	令和6年度 販売数量	令和6年度 販売金額
米穀	米	23,502,000	3,681,250	23,502,000	4,215,660	23,502,000	4,339,650
	その他穀類	-	337,754	-	342,754	-	347,754
	計	**23,502,000**	**4,019,004**	**23,502,000**	**4,558,414**	**23,502,000**	**4,687,404**
果実	もも	10,412,000	6,247,200	10,561,100	6,336,660	10,711,100	6,426,660
	りんご	2,693,500	667,810	2,786,920	691,130	2,836,920	703,630
	なし	3,261,800	1,161,840	3,507,460	1,248,571	3,706,460	1,318,221
	ぶどう	537,800	626,471	533,000	639,600	536,000	680,200
	おうとう	29,790	59,580	29,600	59,200	29,500	59,000
	プラム	97,700	53,335	96,000	52,400	93,000	51,600
	いちじく	80,850	33,555	80,850	33,555	80,800	33,540
	いちご	565,250	572,070	556,500	563,320	551,500	604,820
	あんぽ柿	971,150	1,456,925	972,000	1,458,200	972,000	1,458,200
	柿	131,300	29,060	131,000	29,000	131,000	29,000
	その他果実	51,250	17,245	51,100	17,190	51,100	17,190
	加工果実	661,100	17,042	660,000	16,940	660,000	16,940
	計	**19,493,490**	**10,942,133**	**19,965,530**	**11,145,766**	**20,359,380**	**11,399,001**
そさい	きゅうり	12,215,700	4,264,345	12,459,500	4,328,860	12,524,350	4,363,660
	にら	392,700	246,308	397,850	252,000	405,500	253,550
	トマト	201,650	55,045	201,650	55,045	201,650	55,045
	ミニトマト	501,300	315,745	519,800	325,161	525,550	330,847
	さやえんどう	74,053	69,641	74,353	67,641	74,653	67,641
	スナップ	190,250	182,588	195,750	188,947	197,250	190,483
	ピース	22,820	11,440	22,920	11,520	23,020	11,600
	いんげん	156,900	143,410	157,000	143,400	157,000	143,300
	にがうり	45,000	14,900	45,000	14,900	45,000	14,900
	春菊	217,800	134,445	218,500	134,900	219,500	135,550
	なす	244,600	80,212	252,100	81,749	248,350	81,609
	ピーマン	274,100	104,540	280,700	106,129	277,400	105,983
	あさつき	17,100	10,260	17,100	10,260	17,100	10,260
	つるむらさき	152,400	56,668	153,000	56,890	154,000	57,260
	ねぎ	505,000	121,700	515,500	124,450	527,500	127,800
	アスパラガス	56,900	56,448	57,900	57,888	58,900	59,138
	ブロッコリー	322,600	115,120	335,600	128,120	361,600	136,620
	山菜	4,120	9,204	4,120	9,204	4,120	9,204
	加工野菜	585,960	40,128	585,960	40,128	585,960	40,128
	その他野菜	411,080	104,434	411,080	105,894	411,080	105,894
	計	**16,592,033**	**6,136,581**	**16,905,383**	**6,243,086**	**17,019,483**	**6,300,472**
特産	菌茸類	152,820	77,192	152,810	77,192	152,810	77,192
	こんにゃく	14,400	1,440	14,400	1,440	14,400	1,440
	養蚕	1,000	13,500	1,000	13,500	1,000	13,500
	凍豆腐	100,000	30,000	100,000	30,000	100,000	30,000
	計	**268,220**	**122,132**	**268,210**	**122,132**	**268,210**	**122,132**
その他		**188,000**	**60,500**	**188,000**	**63,780**	**188,000**	**63,780**
花卉		**17,483,200**	**887,855**	**18,129,300**	**894,110**	**18,174,500**	**897,673**
直販	農産物直売所	-	2,122,851	-	2,144,079	-	2,165,308
	インショップ他	-	446,600	-	446,600	-	446,950
	計	**-**	**2,569,451**	**-**	**2,590,679**	**-**	**2,612,258**
畜産	生乳	9,070	1,026,778	9,115	1,029,845	9,115	1,029,845
	肉牛	638	766,600	639	768,800	642	774,400
	和牛子牛	2,541	1,715,700	2,642	1,807,600	2,702	1,855,700
	和牛成牛	156	56,100	160	57,100	162	58,300
	乳牛・交雑子牛	701	146,450	704	147,050	709	148,050
	肉豚	530	20,000	480	18,000	480	18,000
	廃牛・その他	122	32,100	122	32,100	127	34,100
	計	**13,758**	**3,763,728**	**13,862**	**3,860,495**	**13,937**	**3,918,395**
合計		**-**	**28,501,384**	**-**	**29,478,462**	**-**	**30,001,115**

※令和４年度計画に飼料用米の直接交付金を米穀単価に換算した場合、29億1,617万円となり、販売高合計は314億1,756万円となります。

◆販売品販売高計画 令和4年度地区本部別販売品販売高計画

（単位：キロ・千円）

分類	品目	福島		伊達		安達		そうま	
		販売数量	販売金額	販売数量	販売金額	販売数量	販売金額	販売数量	販売金額
米穀	米	2,322,000	388,650	2,580,000	405,000	8,280,000	1,280,600	10,320,000	1,607,000
	その他穀類	-	30,674	-	145,785	-	42,295	-	119,000
	計	**2,322,000**	**419,324**	**2,580,000**	**550,785**	**8,280,000**	**1,322,895**	**10,320,000**	**1,726,000**
果実	もも	4,950,000	2,970,000	5,462,000	3,277,200	-	-	-	-
	りんご	2,600,000	650,000	69,500	12,510	24,000	5,300	-	-
	なし	2,500,000	875,000	33,800	10,140	72,000	25,200	850,000	251,500
	ぶどう	160,000	192,000	377,800	434,471	-	-	-	-
	おうとう	22,000	44,000	7,790	15,580	-	-	-	-
	プラム	8,000	4,000	89,700	49,335	-	-	-	-
	いちじく	-	-	850	255	-	-	80,000	33,300
	いちご	75,000	85,000	478,750	478,750	1,500	1,800	10,000	6,520
	あんぽ柿	2,000	3,200	969,150	1,453,725	-	-	-	-
	柿	60,000	15,000	55,300	11,060	16,000	3,000	-	-
	その他果実	1,300	1,575	49,350	15,550	600	120	-	-
	加工果実	404,000	6,300	251,100	10,622	6,000	120	-	-
	計	**10,782,300**	**4,846,075**	**7,845,090**	**5,769,198**	**120,100**	**35,540**	**94,000**	**291,320**
そさい	きゅうり	1,700,000	595,000	6,844,700	2,395,645	3,470,000	1,214,500	197,470	59,200
	にら	11,000	5,500	253,550	164,808	2,000	1,000	120,000	75,000
	トマト	25,000	6,250	34,650	10,395	82,000	24,000	60,000	14,400
	ミニトマト	120,000	72,000	116,300	75,595	245,000	159,250	20,000	8,900
	さやえんどう	1,200	1,080	59,853	56,861	13,000	11,700	-	-
	スナップ	5,000	5,000	153,250	145,588	32,000	32,000	-	-
	ピース	100	80	22,720	11,360	-	-	-	-
	いんげん	10,000	8,000	64,900	58,410	72,000	72,000	10,000	5,000
	にがうり	20,000	7,400	25,000	7,500	-	-	-	-
	春菊	3,500	1,750	172,300	111,995	22,000	11,000	20,000	9,700
	なす	5,000	1,250	11,600	4,408	218,000	71,722	10,000	2,832
	ピーマン	-	-	74,100	29,640	190,000	74,100	10,000	800
	あさつき	100	60	-	-	17,000	10,200	-	-
	つるむらさき	-	-	124,400	46,028	28,000	10,640	-	-
	ねぎ	5,000	1,500	-	-	250,000	50,000	250,000	75,200
	アスパラガス	150	210	34,750	43,438	12,000	10,800	10,000	2,000
	ブロッコリー	600	120	-	-	-	-	290,000	110,000
	山菜	1,500	5,700	1,620	604	1,000	2,900	-	-
	加工野菜	75,000	7,500	180,960	10,128	320,000	16,000	10,000	6,500
	その他野菜	25,000	7,500	46,080	20,076	50,000	18,278	290,000	58,580
	計	**2,008,150**	**725,900**	**8,220,733**	**3,192,479**	**5,024,000**	**1,790,090**	**1,297,470**	**428,112**
特産	菌茸類	1,000	900	21,820	13,192	120,000	60,000	10,000	3,100
	こんにゃく	10,000	1,000	3,400	340	1,000	100	-	-
	養蚕	-	10,000	-	-	1,000	3,500	-	-
	凍豆腐	100,000	30,000	-	-	-	-	-	-
	計	**111,000**	**41,900**	**25,220**	**13,532**	**122,000**	**63,600**	**10,000**	**3,100**
その他		**-**	**-**	**18,000**	**28,900**	**-**	**-**	**170,000**	**31,600**
花卉		**13,200,000**	**650,000**	**540,000**	**29,155**	**3,063,200**	**147,800**	**680,000**	**60,900**
直販	農産物直売所	-	1,318,112	-	383,394	-	126,845	-	294,500
	インショップ他	-	-	-	206,600	-	130,000	-	110,000
	計	**-**	**1,318,112**	**-**	**589,994**	**-**	**256,845**	**-**	**404,500**
畜産	生乳	1,255	141,183	315	35,595	5,730	650,000	1,770	200,000
	肉牛	-	-	74	88,800	140	175,000	424	502,800
	和牛子牛	240	148,800	70	45,500	1,558	1,050,000	673	471,400
	和牛成牛	20	7,000	10	3,500	87	30,000	39	15,600
	乳牛・交雑子牛	88	17,600	24	4,800	460	91,000	129	33,050
	肉豚	-	-	-	-	530	20,000	-	-
	廃牛・その他	-	-	7	2,450	70	19,000	45	10,650
	計	**1,603**	**314,583**	**500**	**180,645**	**8,575**	**2,035,000**	**3,080**	**1,233,500**
合計		**-**	**8,315,894**	**-**	**10,354,688**	**-**	**5,651,770**	**-**	**4,179,032**

◆農業所得アップ・販売額アップ事例！（JA広報誌「みらいろ」掲載より）

事例農家	改善・支援項目等（経営内容）	販売額	出荷量
きゅうり農家（31.1号）	ソーラーパネル揚水潅水導入10a（JA支援事業）（25a） ※慣行圃場との比較(10a換算)	**109.6%** 254.1万円▶278.7万円	**109.6%** 6,600kg▶7,240kg
チェリートマト農家（31.3号）	ハウス1棟1.5a新設（ＪＡ支援事業）（3a）	**260.4%** 9.6万円▶25万円	**210.4%** 201kg▶423kg
なし農家（31.5号）	樹体ジョイント仕立て・苗木代助成（ＪＡ支援事業） （幸水10a）　※10a換算見込	**160%** 7.5万円▶12万円	**160%** 250kg▶400kg
きゅうり農家（01.6号）	ハウス1棟2.4a新設（JA支援事業）（雨よけ14a）	**297.2%** 73.7万円▶219.1万円	**195.9%** 2,440kg▶4,781kg
きゅうり農家（01.7号）	落差式潅水設備導入10a（JA支援事業）（20a）	**113.5%** 466.2万円▶529.4万円	
トルコギキョウ農家（01.8号）	ハウス1棟新設（JA支援事業）（1.4a）　※10a換算見込	新規355万円	新規22千本
いちご農家（01.11号）	環境制御装置、炭酸ガス発生機導入（JA支援事業等）（17a）	**137.2%** 590万円▶810万円	**118.7%** 7,480kg▶8,880kg
チェリートマト農家（01.12号）	ハウス1棟1.4a新設、落差潅水設備導入助成（JA支援事業）(2.4a)	**295.7%** 26.2万円▶77.5万円	**285.1%** 1,776パック▶5,064パック
ブロッコリー農家（02.1号）	ブロッコリー苗代助成増反20a（ＪＡ支援事業）(50a)	**298.3%** 24.9万円▶74.3万円	**546.5%** 516ケース▶2,820ケース
チェリートマト農家（02.2号）	新規栽培支援として養液栽培隔離システム導入（1.2a） （JA支援事業）	新規62.1万円	新規3,304パック
きゅうり農家（02.3号）	ハウス3棟新設（JA支援事業）※雨よけ実績 ※露地10a減反・雨よけ10a増反	**232.4%** 515万円▶1,198万円	**288.7%** 11,272kg▶32,540kg
小菊農家（02.5号）	ハウス1棟1.3a新設（JA支援事業）20aから30aに増反	**105.6%** 296万円▶312万円	**111.8%** 78,800本▶88,110本
ブロッコリー農家（02.6号）	半自動移植機導入（20a）	**123%** 183万円▶226万円	**325.2%** 1,002ケース▶1,203ケース
なし農家（02.7号）	樹体ジョイント仕立て導入（ＪＡ支援事業）(幸水あきづき10a) ※10a換算見込	**160%** 7.5万円▶12万円	**160%** 250kg▶400kg
きゅうり農家（02.8号）	ハウス3棟新設（JA支援事業）（雨よけ8a抑制8a）	**178.1%** 407万円▶725万円	**217.4%** 8,350kg▶18,155kg
きゅうり農家（02.10号）	自走式防除機導入による薬剤散布時短（JA支援事業） （夏秋きゅうり40a）		**114.1%** 17,335kg▶19,790kg
チェリートマト農家（02.12号）	ハウス新設、種苗購入、選別機付帯設備導入（JA支援事業） （営農再開10a）	231万円	3,956kg
チェリートマト農家（02.12号）	ハウス1棟新設（JA支援事業）（3.6a）	**150.8%** 8.4万円▶12.7万円	**114.1%** 152kg▶240kg
きゅうり農家（03.1号）	ハウス1棟新設（JA支援事業）（雨よけ2a抑制6a）	**1,012.6%** 20万円→208万円	**700.2%** 725kg▶5,077kg
小菊農家（03.2号）	選花機、潅水資材、管理機導入（JA支援事業） 新規参入小菊15a	171万円	52,900本
きゅうり農家（03.3号）	ハウス1棟新設（JA支援事業）（10a）	**127.8%** 156万円▶199万円	**112.4%** 1,199ケース▶1,348ケース
小菊農家（03.5号）	電照設備導入（JA支援事業）（小菊65a）	**123.4%** 1,173万円▶1,447万円	**109.3%** 2,298箱▶2,512箱
いちご農家（03.6号）	暖房機等導入（JA支援事業）（17a）		**101.0%** 6,016.4kg▶6,074.1kg
きゅうり農家（03.8号）	潅水装置等導入（JA支援事業）（43a）	**135.1%** 1,052万円▶1,421万円	**112.8%** 6,701ケース▶7,557ケース
ねぎ農家（03.10号）	クローラー追肥機導入（JA支援事業）（1.2ha）		**130.4%** 14,755kg→19,245kg
きゅうり農家（03.11号）	大型鉄骨ハウス導入（JA支援事業）（50a）		**125.0%** 108t▶135t
いちご農家（03.12号）	パイプハウス新設（JA支援事業）	**100.2%** 2,899万円▶2,904万円	**100.8%** 22,247kg▶22,439kg

菊の電照設備の導入

きゅうりの大型鉄骨ハウスの導入

イチゴのパイプハウスの導入

JA グループ福島の取り組み
第 41 回 JA 福島大会議案（地域農業振興戦略抜粋版）
持続可能な「福島の農業」と「JA」の未来づくり
～福島の農業と人と地域共生を軸として～

◆地域農業振興戦略

重点事項

1国内・国外の農畜産物市場・需要動向に応じた生産・販売戦略の展開

①国内市場の重要等の変化に応じた生産販売戦略

主食用米の過度な生産依存から脱却し、園芸を中心に需要等の変化に応じた生産･販売対策を次のとおり進めます。また、関係機関と連携し、生産対策に必要な農地集積や生産環境整備（基盤整備、排水対策等）の支援を行います。

【福島県の農業生産構造、需要等の変化及び生産・販売戦略】

品目	農業産出額（構成割合）（2019年）	農産物需要等の変化	生産戦略の展開	販売戦略の展開
共通		●国内市場の縮小 ●低価格、安全性、食べやすさ、健康指向の増加等食の多様化	●需要に応じた生産態勢の確立 ●地産地消拡大に向けた直売所向け生産体制拡大	●市場に加え、加工・業務用向け販売の拡大 ●輸出の拡大 ●ｅコマース（インターネット販売）の拡大
米	814億円 (39.0%)	●消費減による需要量は毎年10万ｔの減少 ●業務用需要の増加 ●販売価格の下落 ●調理不要の手軽さ重視志向	●60kg当り単価⇒10a当り収入増加への転換 ●需要に応じた制度別・用途別（飼料用、備蓄、加工用、輸出用）作付けの実施 ●水田フル活用による畑作物（大豆・麦）の振興 ●生産コストの更なる削減	●県内における県産米の消費拡大 ●パックごはん、冷凍、米粉等加工品への対応
野菜	438億円 (21.0%)	●輸入量331万ｔ（生産量の22%） ●加工・業務用需要増加（全体仕向量の57%） ●消費者の購入金額は生鮮減少、サラダ等加工品増加	●需要に対応した水田を活用した園芸への転換 ●夏秋品目偏重から施設化等による周年出荷展開 ●加工・業務用専用野菜の生産 ●土地利用・機械化体系による省力生産体系構築	●加工・業務用需要向け契約取引等多様な販路の確保 ●広域的な集出荷施設や貯蔵施設等の整備 ●必要に応じたカットセンター等の加工場の検討
果実	273億円 (13.1%)	●生鮮果実購入量及び摂取量は減少 ●若い世代程加工品を志向 ●カットフルーツの需要増加 ●消費者は「手頃な価格」「食べやすい」「機能性が高い」果物を志向する傾向	●より美味しく、食べやすく、付加価値の高い果実生産 ●加工・業務用需要に対応した専用園地での生産 ●輸出拡大に向けた生産力増強	●出荷規格の見直しや流通体制構築による省力的・効果的流通の実施 ●6次化商品等付加価値を高める加工品の開発 ●輸出の拡大
畜産	435億円 (20.9%)	●近年の肉ブームにより消費量増加 ●国産生産量33.6万ｔと近年増加傾向 輸入量は59.1万ｔと毎年増加 ●福島県の牛肉は風評被害の影響等により、依然として震災前水準の価格までは回復していない	●肉用牛・酪農の生産基盤維持拡大 ●優良素牛導入・保留のための域内キャトル・ブリーディング等の繁殖生産基盤の構築 ●自給飼料・粗飼料生産のためのコントラクター組織等の育成・確保 ●家畜疾病対策の強化	
その他	126億円			
合計	**2,086億円**			

②水田フル活動による所得確保策の実施

10a 当り所得の最大化を実現するため、園芸品目等の需要に応じた高収益作物の導入や、畑作物（大豆、麦）の振興を図ります。

③「ふくしまギガ団地（仮称）」構想の実現

米の生産過剰基調により、生産品目の見直しが必要なことから、国産需要が見込まれる園芸品目への生産シフトを進めるため、秋田県の取り組みを参考として、「ふくしま園芸ギガ団地（仮称）」構想の実現を進めます。

- ふくしまイレブン及び福島県農業振興計画における重点品目を中心に、園芸産地化を図ります。
- 「ふくしま園芸ギガ団地（仮称）」構想実現に当たっては、初期投資を抑える助成 措置等の支援策検討や JA の営農指導並びに販売流通の強化を図ります。

「ふくしま園芸ギガ団地」構想（仮称）の構築

（参考：秋田メガ団地構想）

- 1団地当たり販売額1億円以上（サテライト団地は3千万円）▶少人数で十分な農業所得を確保
- 品目を絞り込み出荷ロットを確保▶統一栽培や共同作業で効率生産
- 原則として1箇所に団地化▶作業効率UP
- 雇用主体の農業で地域が活性化▶労賃として地域に還元

④国外市場への輸出拡充

ア . 輸出重点品目の生産拡大

輸出重点品目（コメ（パックご飯、米粉、米製品）、りんご、もも、宿根カスミソウ）を中心に、その他牛肉、日本なし等の生産拡大を図ります。

イ . 所得確保に向けた生産・流通コスト低減

所得増大が可能となる生産・流通コスト低減対策を実施します。

ウ . 輸出振興に向けた、販売・流通態勢の拡充（県域、全国域連携）

2「もうかる農業」の構築による「担い手育成」と総合的支援の展開

①「もうかる農業」に向けた「農業経営モデル」の構築による中核的担い手（集落営農含む）の育成

ア .「農業経営モデル」

JA が関係機関と連携して地域の実情にあった「農業経営モデル」を構築し、もうかる、誇れる農業の実現に取り組みます。

※「農業経営モデル」

農業 ＝ 生業として選択するために必要な農業所得（生涯所得）水準を実現できる、複合経営を前提とした地域別・品目別の農業経営のモデル。

【農業経営モデルのイメージ】

品目	経営規模	農業収入	農業経営費	農業所得
水稲	3ha	2,410万円	1,360万円	1,050万円
ブロッコリー（春まき）	0.8ha			
ブロッコリー（秋まき）	0.8ha			
トマト（夏秋）	0.4ha			

※作成にあたっては、以下の資料を参考とした。
＊「農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」（福島県）、「福島県農林水産業の現状」（福島県）、「第２次地域農業振興計画」（JA 夢みなみ）
＊農業所得率は、水稲 32.5%、園芸 46.1% と仮定。
＊主たる農業経営者は２名と仮定。雇用労働力は農業経営費に含む。

②担い手に対する支援

ア.中核的担い手に対しては、JAの担い手支援事業、営農指導事業を通じ、農業経営モデルの実現に向けた支援を実施します。

イ.多様な担い手（中小規模経営体、自給的農家、女性、高齢者等）に対しては、地域を支える担い手として、営農指導による生産・流通支援やファーマーズマーケット利用等を通じた支援を行います。

③中核的担い手育成に向けた総合的支援のための態勢構築

JAグループ福島は、以下のとおり中核的担い手の育成・支援を実施します。

担い手支援項目等	総合的支援内容
新規就農者向け対応支援	●就農相談、農業体験、農業研修、就農雇用、生活相談、独立、技術、資金等の就農支援パッケージによる支援を実施する。 ●各JAにおいて、管内市町村と連携した支援センターの設置を進める。
農業法人に対する支援	●県内外農業法人の誘致 ▶県内外の農業法人に対し、JA管内の農地等の情報を提供し、農業を継続する担い手としての誘導を支援する。 ●出資 ▶JAから出資を行い、農業法人設立を支援する。 ●資金援助 ▶法人設立、設備投資、運営等にかかる資金援助を実施する。
JA出資型農業法人を通じた支援	●地域農業の維持、農地の利用増進、担い手の育成・支援 ▶地域農業の担い手として、農業経営、農作業受託やほ場の利用調整支援を行う。 ▶新規就農者の研修や雇用した従業員の育成と独立支援を行う。
農業労働力支援	●農業労働力確保策の展開 ▶ふくしま農業求人サイト「みつかる農しごと」の運用、農福連携、ボランティア、農業体験等様々なルートからの農業労働力の確保を図る。 ▶雇用労働力活用に必要な労務管理を支援する。
農地集積・管理支援	●「ほ場管理システム」（GIS）の活用により、農地集積、ほ場作業の効率化を実施する。 ●スマート農業の積極導入により農作業の効率化やコスト削減を図る。 ●行政と連携し、必要とされる農地集積を支援する。
セーフティネット対策支援	●セーフティネット対策の利用促進 ▶野菜価格安定制度､収入保険制度､収入減少影響緩和対策等のさらなる利用促進を図る。
県域の態勢整備	●「福島県アグリサポートセンター（仮称）」の設置 ▶JAグループ福島、福島県、農業会議、農業振興公社等関係機関が連携した態勢を構築し、JAの担い手支援事業について総合的支援を実行する。 ▶必要に応じて、中小企業診断士、税理士、社会保険労務士等専門家と連携する。

【「福島県アグリサポートセンター（仮称）」の就農希望者育成イメージ】

福島県アグリサポートセンター（仮称）の役割

STEP1	農業研修	農業総合センターほか県の施設で生産技術研修受講
STEP2	就農雇用あっせん	農業生産法人（出資型法人含む）又は大規模経営体の日常的経営相談就農雇用斡旋（2～3年）
STEP3	農業技術研修（座学）	雇用就農
STEP4	農業経営研修（初級）	農業の関連法規、税務、会計や農産物流通に関する研修
STEP5	独立に向けた経営相談	独立に必要な準備のため資金、農地、農機具等、経営計画の作成を支援
STEP6	独立支援	住居、農地斡旋、農業経営計画作成
STEP7	農業経営研修（中級）	法人化に向けて必要な経営知識の習得
STEP8	法人化に向けた相談	法人経営を目指す農業者に対して法人化に向け必要な準備事項を説明、相談対応
STEP9	法人化支援	労働力斡旋、経営管理に必要な仕組み導入（会計・労務管理）、農業法人経営計画の作成支援、農地斡旋、資金援助
STEP10	法人化後支援	日常的経営相談

※関連する支援：補助金の申請代行（STEP1、STEP4、STEP6）

3 原発事故被災地の営農再開に向けた取り組み拡充

①原発事故被災地の営農再開に向けた取り組み

原発事故被災地については、引き続き被災市町村と連携し営農再開に向けた取り組みを進めます。

*営農再開率38%（営農再開面積6,577ha/営農休止面積17,298ha 2021.3現在 福島県）

＜重点取り組み事項＞

ア.被災地域における担い手確保、特に地区外からの参入促進に向けた経営モデルを提案及び各市町村への圃場集積や住環境整備等の働き掛けを行っていきます。

イ.CE、育苗センター等の稼働に向けたJAの運営体制（子会社による運営計画含む）を整備していきます。

ウ.「広域的な高付加価値産地構想」の具現化、販売流通戦略の構築及び産地計画に基づく地域農業振興計画の策定を行っていきます。

エ.「高付加価値産地展開支援事業」を活用した生産・流通関連施設（CEや集出荷施設等）の設置に向け、加工流通業者と連携した生産・販売戦略づくりを行っていきます。

②原発事故に伴う損害の万全な補償対策の継続

東日本大震災・原発事故に伴う不耕作や風評被害による損害は依然として発生しており、この損害に対する万全な補償対策がとられるよう、「JAグループ福島東京電力原発事故損害賠償対策福島県協議会」を通じ、万全な補償対策に取り組みます。

4 福島県農畜産物の安全・安心の取り組み

①第三者認証GAP取得の取り組み拡大

ア.第三者認証GAP取得の取り組みを拡大し、福島県産の「誇れる」農畜産物の安全・安心を発信していきます。

イ.GAP取得のメリット（経営管理の高度化、労働生産性の向上、リスクの最小化等）を発揮し経営改善を図るとともに、流通・消費者に対するGAP農畜産物の理解促進を図ります。

ウ.2021年6月に完全施行したHACCP制度化により、加工・業務向け原材料となる農畜産物の安全性がさらに求められるようになっているため、第三者認証GAP取得の取り組みを拡大し、実需者からのニーズに対応していきます。

エ.輸出先から求められる基準（条件）に対応するため、第三者認証GAPの取得を進めます。

5 みどりの食料システム戦略の取り組み

みどりの食料システム戦略決定を受け、持続可能な食料生産と環境負荷軽減や生産基盤強化への対応について、組織的な議論を行い検討します。

- 省エネ型施設園芸施設の導入
- 環境負荷軽減に資する資材の提案・推進
- 耕畜連携・循環型農業による環境負荷軽減
- 省力化や低コスト化への取り組み　等

3 年後の目標

農業産出額を大震災・原発事故の水準まで早期回復（2,330 億円）※水田活用の直接支払交付金含む

❶ JA の農業販売高 1,000 万円以上農家の増加
（1,000 万円以上農業経営者　約 1,200 経営体）
※ 2019 年 JA 販売品販売高　電算システム把握データ

❷ JA の園芸販売高の増大
（県内 JA 園芸販売高 381 億円　（2020 年度各 JA 総代会資料））
※野菜、果実、花き、特産、直売所合計

❸ 輸出の増大（119 百万円）※ 2019 年実績：福島県農林水産部調べ

『国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する』。この考え方を「国消国産（こくしょうこくさん）」といいます。これは、私たちの何気ない日常を彩り、生活を支えてくれる豊かな「食」を明日へつないでいくために、一人ひとりがきちんと向き合い、考えなくてはいけない重要なテーマだと、JAグループは考えています。

日本の食料自給率は依然として過去最低水準です。

もし、世界的な気候変動や人口増加による食料不足で、様々な国が輸出を制限してしまったら、私たちの食生活はどうなってしまうでしょう。日本の農業は、担い手の高齢化・減少が進み、耕されず荒れてしまった農地が増えています。農畜産物は短期間で生産を増やすことが難しく、一度荒れた農地を再び生産できる状態に戻すには、長い時間と大変な労力が必要です。

さらに、農業・農村には、洪水等の災害から街を守り、多様な生き物の住み家になるなど、食べ物を生み出すほかに多くの役割がありますが、これらの役割を維持することも難しくなってきています。

このように、いま、日本の食・農は多くの課題に直面しています。その課題を解決するためにも、「国消国産」はとても大切な考え方です。

JAグループは、皆さんの豊かな食生活を、そして、日本の農業を、持続可能でより良いものとするため、「国消国産」に取り組みます。皆さんも一緒に、国産の農畜産物を食べて・飲んで・応援して、大切な日本の食・農を、未来へつなぎませんか。

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ　JAグループ

JAふくしま未来
食料安全保障の強化と
食料自給率の向上へ
国消国産
こくしょうこくさん
JAふくしま未来
と言ん中に“食と農”
次代につなぐ地域づくり
第3期
中期経営計画
メインスローガン
JAふくしま未来